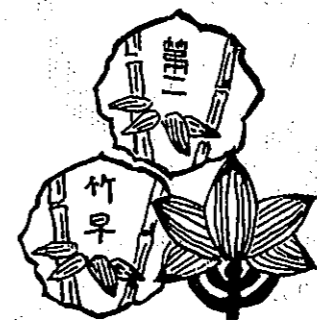


第5号 1994年

学生会報



東京府立第二高等女学校同窓会
東京都立竹早高等学校同窓会



編集委員

表紙	内山 隆子	高女四十九回生
挿絵	森本美智子	高女三回生
藤田多賀子	向井 正昭	高女四回生
安岡 桂子	飯高 正子	高女四回生
高岡 信博	仙葉喜美子	高女四回生
吉岡 忠俊	高島佐智子	高女四回生
今永 絢子	小山 豊子	高女四回生
角掛 隆	藤田多賀子	高女四回生
関 文隆	内海 晶	高女四回生
山廣 俊雄	山廣 俊雄	高女七回生
渡辺 信博	渡辺 信博	高女十回生
安岡 桂子	安岡 桂子	高女十三回生
藤田多賀子	藤田多賀子	高女十二回生
		高女四回生

学生会報

第五号
平成六年四月二十四日発行
発行・編集 会
東京府立第二高等女学校同窓会
東京都立竹早高等学校 同窓会
〒100 東京都文京区小石川四ノ二ノ一
東京都立竹早高等学校内
編集・学生会編集委員会
印刷・髙ニット・印刷所
〒100 東京都文京区千駄木三ノ三ノ二
電話・〇三(三三二)〇二一〇

平成六年度 篁会 総会のご案内

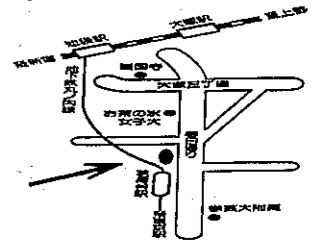
下記のように総会を開催いたします。お誘い合わせの上御出席ください。

- 日時 6月25日(土)
 受付 11時より (11時20分 総会開始)
- 会場 茗溪会館
 東京都文京区大塚1-5-22 TEL:03-3943-0321(代)
 (地下鉄丸の内線 茗荷谷駅 より徒歩2分)
- 会費 6,000円(学生は2,000円)
- 内容 ◆ 総会議事
 ◆ 講演 「私の音楽人生」～心はいつも少年のように～
 講師 大中恩先生
 ◆ 懇親会 立食パーティ 12時40分より
 ご出席の方は5月31日までに同封の葉書でお返事をお願いします。

【講師紹介】

東京音楽学校(現芸大)作曲科卒業。
 作品は、“子どものうた”“歌曲”“合唱曲”“ミュージカル”など声楽曲が主で、その作品の多いことは、他に類を見ない。
 自ら指揮をし、自作品のみを演奏した混成合唱団コーラルMeg(1957～1987)の活動は、特にユニークなものだった。
 芸術祭合唱曲作品コンクールで『芸術祭奨励賞』を4回、1982年に『日本童謡大賞』を受賞した。
 1989年に『紫綬褒章』を受賞した。

- ◆ 幹事 高島 TEL:03-3904-1426
 今 4回生 (昭和27年卒)
 高 25回生 (" 47 ")
 校 45回生 (平成5年卒)
- ◆ 幹事 小山 TEL:03-3729-1322
 次 5回生 (昭和28年卒)
 高 26回生 (" 48 ")
 校 46回生 (平成6年卒)



ご挨拶



永い間の念願だった校舎も九分通り出来上がり、後は完成のお祝いを待つばかりになりました。本日に長い長い道のりでございました。その間、歴代の校長先生をはじめ諸先生、PTAの皆様、同窓会の方々の力強いご支援がありましたからこそ、近く完成の日を見ることのできるのです。生徒さん方はさぞかしどんなにか明るいお気持ちで勉強なさっておいでのことと存じます。

平成六年の新しい年を迎えて心も新たに、本年はどのようなようにしたら皆様の役に少しでも立つことができると考えておられるかと考えております。

昭和四年四月から九年三月まで私がお世話になりました当時の木造二階建ての校舎は、一学年が二クラスなので、女学校だけでしたから、特別教室を除き十教室あればよいわけですが、師範学校と一緒に教室が足らず、時間によって教室を移動しなければなりませんでした。それでも私共は常にプライドを持っておりました。将来先生になられる方達と同じ校舎で、師範学校の先生方に私共もお教えいただいたのです。今もクラスメートの方達とお話によく出ますのは、府立第二高女の生徒として勉学とスポーツを十分

にさせていたいただいたという有難い思い出でございます。これが後々までも私共を大きな力で支えていると思えます。どうぞお若い竹早高校の皆様、皆様の学校は私共に強い自信と共に努力の精神を植え付けてくれました。私共はこれから先も、この精神を忘れずにやってゆきたいと思えます。

力強い同窓会の支援に期待

——竹早高校新時代へ——



校長 金井 忠雄
 竹早の学舎を卒業されてから、同窓生の皆様には、ますます健康にて各方面で活躍のことに喜び申し上げます。東京府立第二高等女学校として、

一九〇〇年(明治三十三年)創立以来、現在の都立竹早高校としての今日まで、母校も大きく変化発展を遂げてまいりました。都内でも数少ない二世紀に及ぶ長い歴史を持つ伝統校として、また、文教地区にある安定した有数の進学校のひとつとして、卒業生を毎年多数大へ進学させ、国家、社会の次代を背負う優秀な人材を育ててまいりました。国際化の急速な進行という社会の動きにあわせて、昭和十五年から本校は海外帰国生徒学級を設置し、世界の

各地で小、中学校生活の体験を持つ生徒を受け入れてきました。生徒同志よりの刺激となり学校生活が活性化し、竹早高校の大きな特色になっております。今年から都立高校の入学制度の改革で、グループ選抜から各学校独自の単独選抜へ変わり、第四学区以外の隣接学区からも一定数の受験が可能になりました。平成六年度から生徒の様子もかなり変化してくるものと思われれます。また、学校の改築工事の進捗状況は、その都度ご報告してきたとおりですが、第一期工事で新校舎が完成し、平成五年十月三十日に第一期工事校舎落成祝賀会を同窓会の皆さまの強力なご支援のもとに開催させていただきました。各方面の方々や中学校への良い学校紹介となりました。篁会の愛知会長さんをはじめ役員の方々、そして会員の皆さまに改めて感謝申し上げます。更に、第二期工事が本格化し、今までの校舎の跡の地下に体育館、格技棟、特別教室を建設し屋上は人工地盤の校庭とする大工事が進行中です。最終的には平成八年一月完成の見込みです。最新の施設、設備を有する竹早高校のより充実のため、同窓会「篁会」の皆様方の強力なご支援を切にお願い申し上げます。さらに、数年後に予定される学校創立百周年をめざして、皆様の在学中の頃の資料や記録など情報をお寄せいただければ幸いです。末筆ながら会員の皆様のご活躍をお祈りいたします。

学生会を終えて

森本 美智子(高校三回)



紫陽花の花びらに、雨の滴が点々と光り梅雨の季節を謳う平成五年六月十九日「学生会」は日比谷公園松本楼に於いて開催されま

第一部の式典は愛知富会長の挨拶、金井忠雄校長のご祝辞に続き、議事の進行など滞りなく行われました。平成四年度会計報告は文芸に掲載致しましたのでご覧ください。

今回の特別講演は佐藤理氏をお招きして「桂離宮の修復を終えて」をテーマにスライドを鑑賞しながら、世界に誇る先人の美意識の一端をお話しいただきました。豊富な資料と高い研鑽を積まれた先生のご講演は、文化遺産の保護という視点だけではなく、日本民族の心の問題をも提起するものでした。第二部の懇親会は二階の宴会場に移り、乾杯を杉内重信前校長にお願ひ致しました。今回私共が心をかたむけましたことの一つに、在校時代に指導いただいた各ルーム・ティーチャールの先生方を可能なかぎりお招きしたいという思いがございました。

戦後の学生改革の一環として、クラス編成も横割りではなく縦割りのルーム制が実験されました。一・二・

三各学年別の十数名ずつが、AからIまでのルームに分かれ竹早高校の原動力となっておりました。したがって直接授業を受けてはいなくても、各人のルーム・ティーチャーに対する思いは大変深いものがありました。その思いをふまえご出席賜りたい旨のお誘いを重ねて参りました。

まずAルームの濱田義文先生(社会)は現在法政大学教授、日本カント学会会長をなさっておいでになります。四十二年前、新米教師として無我夢中で過した。当時の経験をお話ししてくださいました。Dルーム織戸(小宮山)さなへ先生(数学)は昔とかわらぬ凛としたよく通るお声で挨拶くださいました。Jルーム辻忠二郎先生(生物)の笑顔は昔とすこしも変わらずさびるお若くていらっしやいました。ご出席いただけなかった先生方のご消息もお知らせ致しますよう。

Bルーム大谷京子先生(国語)は九十二才になられるお母様のお世話をなさっておいでになる由。Eルーム片寄正道先生(国文)も欠席のお知らせに添えて元気で日々是好日のお便りをくださいました。Gルーム崎(高松)悦子先生(家庭)は出席のお返事をいだけておりましたが急に都合がつかず欠席。Hルーム桑原啓善先生

平成4年度学生会会計報告

平成4年4月1日より
平成5年3月31日まで
(単位 円)

収入総計	7,610,353	
支出総計	1,272,931	
次年度への繰越	6,337,422	

項目	金額	備考
会費	1,335,000	新45回生267名分(⑤5,000)
利子	282,714	東京部教育信用組合、郵便局
寄付	10,000	
前年度より繰越	6,002,639	
合計	7,610,353	

項目	金額	備考
事務費	96,000	8,000×12ヶ月
通信費	17,794	委員連絡用はがき・封筒補充
会費	129,740	新役員歓迎会・役員会費
庶務費	380,297	卒業証書入れ・祝い袋 新入生用パンチ・寄付
印刷費	74,180	学生会員名簿
総会補助費	50,000	総会補助費
交通費	24,940	関西学生会参加旅費
学生会運営補助費	500,000	会館維持補助金
合計	1,272,931	

以上の通り、ご報告致します。この会計報告は、5月20日の理事会で承認されたことも、あわせてご報告致します。 平成5年4月19日
学生会会長 愛知 富 学生会計 荒川 智行 学生会計監査 依田 浩一

(社会)は地方の講演会など東奔西走、多忙な日々のご様子でした。Iルーム大島康行先生(生物)は現在早稲田大学教授。当日はラムサール条約加盟国会議議長のお役目柄、釧路においてになるので残念ながら欠席ということでした。

懐かしい出合いは先生方も元生徒も想いは一つ、来賓の先生方十二名、同窓生百八十名の参集した会場はなごやかな色どりに包まれました。

終わりに近く一同で唱和した懐かしい歌と校歌は、ご参加くださった皆様胸の中につつまでも熱い想いとして記憶されたことと思います。

会の運営にたずさわりました有志一同、無事に責務を果たしましたのも、先輩諸師のご指導にあずかりましたこと、閉会の辞を務めてくださった高校二十四回石黒洋子さんのご協力など、九十余年の伝統ある母校の心の通いあいを改めて痛感し、感謝の思いを深くいたしました。

学校の現況

変革の年——平成六年

教頭 高原 将

新教育課程の編成

平成六年度から高校でも新学習指導要領が実施されます。本校では、それをうけてどのような「教育課程」を編成するのか、平成四年、五年にかけて慎重に検討し、次のような教育課程を編成しました。学校五日制の問題もあつたのですが、週当たりの授業時間は三十二時間(他にHRとクラブ各一時間)とします。一年生は芸術以外すべて同じ科目を学習するのは従来の本校の教育課程と変わりませんが、二年生は文型・理型のいずれかを選択し、各自の興味・関心や進路希望に応じて学習が進められるようにしました。三年生は共通が十五時間で、十七時間まで自分の進路希望に合わせて、かなり自由に科目を選択できるようにしています。

入学選抜制度改革への対応

昭和五十八年度から始まったグループ選抜制度(本校は四十一グループ)は平成五年度をもって終了し、平成六年度の入試から「単独選抜」に変わります。従来本校では、中学生や保護者等に配布する「学校案内」も単色で六ページ、作成部数も多くて二千部程度でした。平成四年からカラー印刷にしました。本年度は二ページ増やして八ページとし、部数も五千部印刷しました。四学区の各中学校はもとより、平成六年度入試から受験できるようにした隣接学区の各中学校すべてに送りました。「学校案内」の内容も歴史と規模・教育目標・教育課程表・卒業生の進路状況・出身中学などの基本的内容に加え

て、おもな学校行事や部活動の写真、新しい校舎の施設・設備の写真さらに学校に大切に保管してある卒業生アルバムから、明治四十三年当時の木造校舎の写真や、昭和二十五年当時の校門の写真も掲載して、本校の輝かしい伝統を紹介しました。受験生や保護者からは好評のようでした。

本校の教育内容や進路状況等を説明し、施設・設備を受験生や保護者等に見学していただく「学校説明会」も、十月十六日(土)の二回開催しました。広い部屋がないため会議室と社会科教室に分けて開催し、第一回目は三百五十五人が、第二回目にも三百四十人の出席がありました。二月に実施された入学選抜は、男子が定員百二十二人に対して百九十一人(約一・六倍)、女子が定員百三人に対して二百六人(二・二倍)の応募がありました。これは受験生・保護者の本校に対する期待と中学生の先生方の指導に加えて本校の伝統や同窓生の皆様のお力ぞえをいただいた御蔭と感謝致しております。

第一期工事校舎落成記念祝賀会

平成五年一月に完成した校舎棟とプールの落成を祝し、第二期工事について隣接する住民の皆様にご協力を御願ひする意味も含めて十月二十日(土)に祝賀会を開催致しました。六月七日に第一回の実行委員会を学校側・PTA・同窓会の三者で集まってスタートし、合計八回の実行委員会を開いて準備致しました。同窓会からは、毎回三人の副会長さんに、御出席いただき開催に向けて御尽力いただきました。祝賀会当日は愛知富会長さん以下十四名の御出席をいただきました。ご報告申し上げます。都教育委員会や施工業者、近隣の高校・中学の代表、歴代校長先生はじめ旧教職員、旧PTA役員から地域の住民の皆様、そして現教職員と保護者を加えて二百三十

一名もの参加で盛大に祝賀会を実施できましたことを感謝し、お礼申し上げます。

第二期工事について

校舎は完成したものの、体育館(アリーナ)と格技室、トレーニングルーム)とその上に人工地盤をつくってグラウンドを建設する第二期工事が、現在進行中です。写真で御覧いただくように(学大の附属幼稚園側から写したものです)昭和四十六年に完成した旧校舎は、基礎部分も含めてすべて解体され、現在は建設機械が入って地下部分の土砂の掘り出し、外部への搬出が始まっています。同窓生の皆様の知っていらっしやるものとしては、写真右端のヒマラヤ杉だけになってしまいました。機会をみて新しくなりました母校にお出掛け下さい。



平成六年度学校行事予定

体育祭 六月一日(水)
竹早祭 九月二十一日(水)二十三日(金)

(財) 篁会館

理事長 吉澤 とも
(高女三十五回)

会員の皆様、御機嫌よろしうお過ごしでいらしゃいますか。編集の方々に苦勞様でございます。

さて、篁会館は、今更申し上げるまでもなく昭和二十九年、旧制第二高女卒の、三浦タマ様、深澤テル様、湯河秋子様が中心となり、他に十余名の役員の方々によって設立され、それを維持する為財団法人として今日に至ったものです。以来、餐席、講演会、芝居鑑賞等催して収入もありましたが、この十数年は、利用の方もへり、家屋の老朽は進み、八年程前から売却の話がでておりました。一昨年、売却が本決りとなり、深澤様の御盡力で、事務員の鈴木さんも田満に立ちのいてくれましたが、出口のない土地はむずかしく、文部省、エイサイその他にかけあつてみましたが、全部不成立、その間に土地は下落をたどり、餐席の方も、月二回、謡の稽古のみになりました。昨年暮漸く買手がつき、とびつく思いで、私が寄附行為(定款)に対する認識不足の為、契約を行い、結果として役員の方々に申し訳ないと思っておりますが、最終的に、三月十八日の理事会で決定、四月一日に買手の藤和不動産より残金(手付金以外の)を受取ることになりました。なお今迄、会合に使用されてきた方々の為に、都庁の指導で、稲葉様(旧 四十回)と、校長先生におめにかかり、前以て申込みをすれば、会議室又は教室を貸してくださることになっております。その他のことについては、四月一日以降、相談してきめることになりました。簡単にございますが、篁会館について説明させて頂きました。

(財) 竹早会

理事長 岩田隆子
(高校十一回)

八ヶ岳寮の活動について
財団法人竹早会の公益目的は、自然の中で自ら学ぶ人々の研修施設の維持運営です。

しかし単に宿泊研修施設では公的な施設もたくさん建てられて居る現状では存在意義がうすくなつてきています。そして手を入れてきれいな状態にしたい、三十年以上過ぎた建物は、抜本的な見直しをする必要があります。活用のニーズに合わせて長期計画で考えなければ、シリ貧になることは目に見えています。そのためには、公益目的をより明確に具体的に提示してより多くの人々のご賛同をいただくなければならぬでしょう。そこで、今私たちが考えている新しい展望を述べてみたいと思います。



基本的には、当初の寄付者の意志を継ぎ、次代を担う青少年の健全育成と私たちの心身の健康を願う『自然回帰塾』を開催しております。

- 一、自然から神秘と多様性を学びたい。
 - 一、自然を自分の目で見、自分の手を使って確かめ、描いて、作って、工夫する楽しさ「土に学ぶ」「木に学ぶ」「草に学ぶ」「布に学ぶ」等々体験学習したい。
 - 一、五教科中心の受験体制に組み込まれていない学校教育、つまり頭の学校にたいしてくらしをつくる「手」の学校をひらきたい。
 - 一、「手仕事」の見直し、先人の知恵の伝承と発展に寄与したい。
- 「学校をギャラリーに」をスローガンに子供の生活空間である学校に造形(陶芸、織り、塗り、絵画、彫刻、その他の手仕事)を展示し、そのすばらしさを伝え、興味関心を持つように働きかけたい。
- (趣旨をご理解いただいて、古き良きものをお持ちの方々に、寄付していただき収集整理して、巡回展示する企画を実現したい。)

人類の歴史が始まって以来、暮らしは「手」と共にありました。しかし現代に生きる私たちは「手」を使うことが少なくなっています。今一度「手」を取りもどしましょう。同窓という縁の関係を最大限に活かして文化の伝承に役立ちたいと思います。

関西篁会より

関西篁会々々長 内藤 花
(高女二十八回)

穏やかなお正月、そして温い部屋でリレハンメル競技に心躍らせた日々も終り、静かに春の兆しの移り変わり心はずむ日々となりました。竹早高校も、多くの方々の御盡力により、近代的設備の整った新しい校舎で、生徒の皆様は快く、楽しく学び勵んでいらつしやること、心からお喜び申し上げます。

関西篁会も、近頃だんだん東京との交流が盛になり、毎年総会には山廣副会長をはじめ、数人御出席下さいますので、色々とお話などどうかがう事が出来まして、楽しい会となりました。閉会後には、仲長し同志で京都の名所散策なさる方もいらつした様でございます。近年特に目立ちます事は、お若い幹事の方々が、とても御熱心に会の事をお考え下さいますので、御出席者が少しづつ、増えます。昨年は京都の大学に御進学なさった、京都はじめてと仰言る新卒の男性もお出で下さつて、皆大喜び致しました。今年は大坂での会となりますが、東京からお出掛け頂けましたら、嬉しゅうございます。唯今決つて居ります事は左の通りでございます。

日時 六月十一日(土)

十一時半より

場所 大阪ターミナルホテル

(JR大阪駅上)

会費 六〇〇〇円

当番幹事

- 高校十一回
- 井上 悦子
- 小林 和子
- 神能 祥世
- 竹井謙一郎
- 渡辺 典子

湘南篁会

神谷 美喜子(高女三十一回)

湘南にも春が近づきました。梅の花が目を楽しませてくれます。昨年は十月に例会を鎌倉材木座の光明寺にていたしました。お寺の静かな広間と手入れの届いたお庭を拝見して静かな楽しいお集りでございます。野口先生の御嬢様字野様(四十回卒)の御骨折と又御子息様がこのお寺に御出になり大変御世話になりました。野口先生は永い間(昭和の初めから)御奉職になりあの戦時中もずっと藤沢から竹早まで御通いになって御出と伺い只今ならともかくあの当時はさぞやかし御大変でいらつしやりました事とお察し申し上げます。

本年の会は六月頃に葉山の森戸海岸の傍にて催します事になってをります。江ノ島と富士山を目の前の森戸海岸でございます。是非ともお天気にいたしたいものでございます。湘南のクラスの方々からも御誘い申し上げ度いと思つてをります。最近では高校の方も大部お出ましになって下さり、御盡力下さいますので賑やかさも増しほんとうに嬉しゅう存じます。

年に一度の会報も楽しく拝見してをりますが御世話の皆様の大変さも如何ばかりかとお察しいたします。何分ともよろしくお願いいたします。

篁寿会だより

水原康子(高女四十五回)

平成六年度篁寿会を、三月二十五日学士会館二一〇号室大広間で例年に倣い開催いたしました。前日までの雨もからりと晴れ、私鉄のストも中止となり胸を撫でおろしました。私達四十五回生当番がお待ちする中、皆さま々と到着されて、十二時十分開会の言葉が始まりました。篁寿会会長の小泉節子様が御欠席の為、愛知篁会会長に御挨拶を頂き、次に吉澤篁会館理事長の会館設立から売却に至る経緯の御報告があり、先輩の方々の長い間の御苦勞をしみじみと感じました。会食に先立ち、二十七回佐藤若菜様の御発声で乾杯、一八〇余名が一堂に会したことを喜び合いました。歓談をしながらの会食は、おもしろかったです。

一時半より一時間、入船亭扇橋師匠の落語に聞き入りました。田生師匠から受け継がれた「鯉沢」その他、瞬く中に時が経ち、笑いが溢れました。校歌斉唱、来年度お当番の四十八回生を紹介し、閉会となりました。

一番のお年寄りは八十九歳の方で、実にお元気でした。語りかけていらつしやう嬉しゅうございました。そこで、サムエル・ウルマンの「青春」という詩を思い出しました。青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。ときには二十歳の青年よりも六〇歳の老人に青春がある。年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる。一後略と謳われています。私達は、よき先輩を見習って、「青春」の時のように、生きて行きたいと思ひます。

会を無事に終えることが出来、四十五回生一同、ご出席の皆様感謝して居ります。



先生の消息 (Q & A)

第五回 塩崎佳子先生 (音楽)

先生のお人柄ゆえ、すんなりとお誘いを受けて下さると思っております。無理やりお願いし、「あなたたまたまに負けたわ。」と言っていたら、私に「先生に出向いていただき、私も恩師として、また先輩として、また時には、友達のような調子で、会話を楽しみました。」

先生が母校にお勧めになられたいきさつを。

先生 まだ音楽学校研究科の生徒でした。その年の夏休みに、音楽の先生が急におやめになった。第二にはまた、私の担任をしてくださった先生が残っていたら、「代わりをやらせよ。しばらく手伝え。」と、電話で矢の催促。せめられて、しかたなく勤めました。まだ生徒の身でしたから、専任で入ったのではありません。一日六時間やって、すぐ帰る。担任も持たなくていいし、会議にも出なくていい。

そのうちに戦争になって、だんだん締めつけられてくる。専任にしてくださいと、校長先生のお宅まで行ってお断りしたけど、だめでした。結局勉強の道はあきらめて、三十年以上勤めました。

教えるという事は、教わるという事。教えるのと、ああ、私こんな弾き方してるんだな、こんな解釈してるんだなって思っ、悪いなと、かえって、こっちの方が教えてもらおうわね。

日本列島卒業生インタビュー

池田 明子 (高校二十回)

日本の地中海と呼ばれる瀬戸内海に面した、温暖な地「高松」より、お便りをさせていただきます。

一九八八年の四月十日、世界一長い瀬戸大橋が開通し、本州と四国の実質的な玄関口となっています。

皆様の中には、竹早の修学旅行を懐かしく思い出される方もいらっしゃると思います。中央構造線を辿るように吉野から四国にわたり、栗林公園、源平合戦で有名な屋島を巡ったように記憶しております。ですから、夫の仕事で高松に移りましたときも、全く初めての土地ではなく、ある種の親しみをもって暮らし始めました。

日本三大庭園の一つに数えられる栗林公園の見事さは格別と、四季折々、訪ねる度に感に入っております。松の葉一葉を、より抜くように手入れをする技術は、根気も技も必要です。様々な仕立てられた松は、表皮の亀甲模様にも歴史を感じさせます。松と言えば、関東の禪に対して、こちらでは常緑の松が、海辺に山に彩りを添えています。市の郊外には、松の盆栽の名産地「鬼無」もあります。

表秋という言葉で、皆様は何を思い浮かべられますか。それはそれは、豊かな豊かなものなのです。初夏のキラキラした光の中で、小麦が実ります。その小麦から、御存じ、讃岐うどんが作られる訳です。いりこの島と呼ばれる伊吹島のいりこでだしを取り、小豆島の醤油で味付け、瀬戸の鯛のカマボコと、細ネギをのせれば、(いや、活き小エビのかき揚げの方が...) 美味しい御馳走讃岐うどんの出来上がりです。海から畑まで自転車で走れる距離身じかな所で、自給自足できてしまう。そのことが、都会育ちの給与生活者に

「私たち、とてもいい曲を教えてくださいませんか」と思っていました。今でもあつと口に出ます。それから、いわゆる独唱曲より、むしろ合唱曲をやった。さつた。(贈写印刷の、塩崎先生手作りの楽譜を青木が持参)

先生 私が勝手に選んだんじゃないですか。だけど私、皆さんに、よく珍しい歌を教わったっておっしゃるって言われるのよ、他の所と比べると。それが、わからぬの。

合唱曲が多かったのは、私が器楽だったからでしょう、きっと。

「ベートーベンの第九のコーラスの曲を下さって、それが何かという説明なしに、詞を付けなさい。」

「メンデルスゾーンの真夏の夜の夢の妖精の歌。今でも譜をさがしてる。」

「田園をレコードで聞かせてください。た。た。曲を口ずさみながら、思い出に話をはなす。」

「男は二人だけ。」「この曲には、あなたたちのパートはないから、好きなパートを歌って。」とおっしゃったことがある。その曲も好きで、今でも歌う。

先生 私、自分で全部書き残してないから、わからない。行きあたりばったりやってるから。せいぶん無責任な話ね。おこられちゃうわよ、今なら。

「高松のときに合唱祭をやってるんです。伴奏も指揮も私たちがして。」

先生 一学年に二コーラスあるの。各コーラスをふた組に分けて、六組になる。あの頃は二時間続きで、初めの時間、あとの時間か、どちらか半分は私がしたの。半分は、とにかく自分達でしない。撰曲も練習も一応自分達でさせました。それで出来上がった頃、一緒に発表したんです。

もちろん私、そこで遊んでたわけじゃないのよ。何とか、かんとか文句は、何とも魅力的なことなのです。そして彼らが、とても強く思えます。土地の恵み、海の恵み、自然の恵みを大切に育んでいるのです。

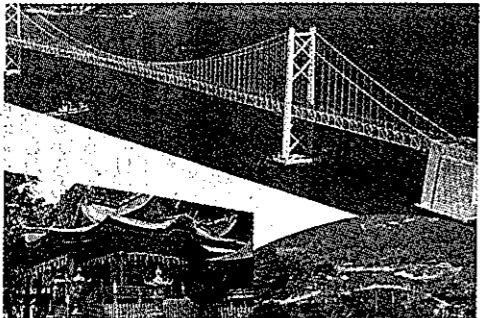
小麦を刈った後の田に順々に水が引かれ、水面が銀色に輝きます。まるでオセロの駒を返すように。そして、緑の稲がグングン伸びて、本格的な夏です。そうそう、麦と麦の間で、ソラマメまで作ってしまうのです。

秋のお彼岸には、近くの和菓子屋のショウウインダーの大壺に、真っ赤なマンジュシャゲがたっぷりと飾られます。彼岸花って本当にお彼岸に咲くのです。車でひと走りしますと、

確かに、あちらこちらに咲いています。少し山の方へ向かいますと、山麓の田の畦にびっちりと、無数の彼岸花が咲きそそいます。夕方で、も在りましたら、

狐の嫁入り行列に誘われて、人里から離れ離れて、奥へ奥へと誘い込まれてしまいうような幽玄さです。高松市は、公官庁の出先機関と支店で、経済が成り立っているといわれます。地元住民に対して、転勤族が多く、毎年春になりますと、私なども、何人かのお見送りを致します。

中心部の住宅地は、社宅・官舎が非常に多く、二〜三年滞在して去る転勤族への、「どうせ転勤するやろ。」との言葉は、どんな気持ちの表現なのでしょう。弘法大師・空海と密接な関係があるといわれている四国八十八ヶ所霊場を巡歴する道路を宮々と「おせたい」として来た人々ですから。のんびり、あくせくする事なく、穏やかな



栗林公園

は言いますよ。それをどれだけ答えてくれるかは別として。

「歌唱テストは、二人ずつ組んで、ソプラノとアルトを交互に歌う形でした。自分のパートだけでなく、どのパートも歌えるように教えていただいた。」

先生 相手のパートを知らないでいて、合唱はできません。

「そのあと、新宿高校と混成合唱をしたことから、北園高校との話。そこから、先輩たちのことと続きました。先生は今、多少ピアノを教えています。ひかえめにおっしゃいました。そして、二期先輩の方々とも月一回合唱を楽しんでいらっしゃる。八月を除いて毎月、「今、七十八回目かしら。」と、こちらをよめ話も。」

先生 小学校二年の時です。父は美校だから、真向いの音校に何かあると聞きに行くわけよね。学生時代にヴァイオリンに魅かれたのでしょ。私がピアノ始めたのは、姉がヴァイオリンやってたからよ。父は凝り性でヴァイオリンやるにはピアノが必要だと、ピアノ買ったわけ。私は五つ違いですが、あとからピアノ始めたわけ。

「御稜威かしこき」の校歌の楽譜はないんですか。」

先生 ええ、私見たことありません。第二で、先生が黒板に書いて下さったのを写しただけです。

前奏は、式で大和田先生が弾いていらした通りです。あとは、自分で付けて弾く。総会のときに、「楽譜貸してください。」って言われるけど困るの。若々しい先生との二時間は、あっという間でした。

(高校四回生) 青木・内海・仙葉 高島・宮沢・向井

暮らしが成り立っていました。高松は変換期を迎えつつあります。遅ればせながら、ジャンボジェットが離着陸し、韓国との路線も開通。四国を縦横断する道路の建設が進み、場外馬券場が開設されようとしています。JRの高松駅周辺のウォーターフロントの開発計画も進んでいます。三十年分ぐらいいが、一気に進むよう、今は、いろいろな可能性を秘めた未知数の段階です。

私は、高松市の図書館でお手伝いをさせていただいていますが、日々、巷にあふれる書物の量を目のあたりにしますと、限られた人生の中で、どのよい出合いの必要性を痛感いたします。特に子供達には、「生きる力を与えるものを」と願って止みません。

当地には、現在、香川大学農学部長を務められている、奥谷康一様(高六D)がいらっしゃる。海洋微生物の多種類の研究で活躍中です。

伝統の行事を生活の中に織り込んで、潮の香り、土の香りのする高松です。お仕事でも、休暇でも、機会がございましたら、どうぞ、ぜひ、おいでませい高松へ。

県都である高松市は、約四百年前の一五八八年に豊臣秀吉の臣、生駒親正が、玉藻の浦に居城を構え、高松城と名付けたことに由来するものです。城は、水陸の攻防と水運を考慮し、堀に海水を引き入れた水城で、全国でも珍しいものです。残念なことに、天守閣は、残っておりません。昭和二十一年に、空襲で、市街地の八十%を消失してしまいました。

学校の移り変わり

旧制第二高女から

新制竹早高女へ

(二・三・四回生当時)

加唐(旧姓間瀬)興三郎

竹早高等学校沿革概要を見ると、昭和二十二年(一九四七)年九月、女子師範部長兼第二高女校長一先生が四国香川県師範学校長に栄転、N先生が第二高女の独立専任の校長に迎えられたとある。N先生は、その四ヶ月前に大陸の戦線から復職されていた。終戦前から女子師範との若干の関係があり、いろいろな事情を感じ、N校長を招聘したのは、F先生を中心とした、旧くからの主に女子の先生方であった。N校長は、学歴こそ殆どなかったが、自主独学のやり手として(も)っとも元陸軍大臣、総理大臣として名をならし戦犯ともなった人の後ろ立てが強かったと専ら噂のあった人として(都)でも、師範(当時は既に学芸大学)対策(主に校舎問題)にはうってつけの校長として推薦したものであろう。

以来、第二高女は女子新制高校から竹早高校と校名がかわる(昭和二十五年)わけだが、これは第四回卒業生が、高校一年時に男女共学制の導入に伴って男子五名を受け入れた為であることは衆知の通りである。(以下略して竹早高校と記すことにする。)

終戦前の小学校から中学校(男子)、高等女学校とつづいていた学制が、いわゆる六・三・三・(四)大学)制に改定されたことは、占領軍の文教政策の強い指導に基づいたものであり、我が国の教育の制度史上、明治以来の大改革であつて、その良否は五十年許り経過した今日、漸く論じられ始めたようであるが、敗戦焼土の中から、殊に義務化された新制中学校三年を建設することは、国家あるいは地方行政地区にとつて、頗るの難事業であつたのである。普通ならば、旧制高女の二・三・三年なるのをまっけて、校地、校舎はそのままで、新しい新制高校としての体制を整えればよかつたわけである。が、竹早には「校舎問題」という難題が控えていたのである。

教員人事の面からいえば、終戦時I部長の下に、高女の教頭をしていたのはM先生であつたが、文京区に新制中学が開校されるに当たつて、文京一中初代校長に推(押)し出された経緯は、新米教員の私の目にも何ともいえず、生々しく記憶に残っている。

教職員が大陸から帰つて来た。新任の旧大卒教員もふえてくる。四回生以後はここに男女共学で男子生徒が増募されることを見込んで、また校舎問題もからんで、男子職員が女子職員を上まわるようになって来た。しかも学歴がずばぬけていい。所謂旧東大(帝大)、文理大系私大でも早慶クラス、女子ではお茶大、津田塾卒等、講師にしてつても然りである。

従つてさすがのN校長も独断専行をほげまれ、大いに教職員の意向を重視していたよう、走狗的な存在であつたようである。

N校長下の校舎問題の狙いは、「校舎奪回」であつた。校地校舎が国立移管のとき、文部省(学芸大)側と、都がかわつた移管条件に、「将来女子師範の校地校舎を教員養成以外に用いなくなつたときは、無条件で無償で都に返還すべきもの」という文書があつた筈であるといふのがその根拠であつた。然しつづいたわけか、その文書の存在があまりなくなり、その「奪回」運動は急速に尻すぼみになつた。代つて



一・二・三年を實際に十二等分してAからIまでの縦割り十二ホームルームを編成したのである。実行されたのは僅か一年間で御破算になつてしまつたが、それは教職員間で反つたあつたし、時間割上不可能な面があつたこともあるが、当時の二年生(竹早三回生)を中心として、二回生若干名と、三・四回生を十二等分の人数のホームルームを編成し、これに十一人の教職員をホームルームティーチャーとして配属したのである。今でも同窓会では、この当時の縦割りホームルームの同級生同志となつて旧交を温めているのを見ると、なかなかユニークな、一・二・三年の交遊の場としてよい面もあつたのではないかとと思われる。

校歌の問題。明治四十年以来の校歌は、明治以来の雰囲気そのままに、なかなかの名歌詞、おごそかなメロディーのもの、新しい人には旧式ととれようが、あつたが、終戦後の時代にはふさわしくないし、この当時政変の動きがあつたが、いよいよ四回生に男子生徒を迎えねばならぬ折も切羽詰まつて、とるもとりかえず旧校歌の四「人の師となり母ともなりて」を「親ともなりて」と胡麻化して入学式を迎えたのは有名な話である。その直後、新しい木俣修作詞、平井康三郎作曲の校歌が出来たのであるが、これ亦よ歌詞、よいメロディーであると感じる。他高校を経験しても、これほど清新潑刺として、男子、女子ともに斉唱するに相応しい校歌は聞いたことがない。その他、土曜休日の五日制導入も何年か続いたらしい。が、これは毎日六・七時間勉強で苦痛であつたとの声を聞いている。

夏になるとアメリカからいわれたらしいサマータイムも実行されたかもしれない。その他、授業に力をいれたと同時に、

校外活動、クラブ活動も他校より熱心に計画された。夏の合宿には富士五湖湖畔の運動クラブや、バンガロー生活、長野県下諏訪まで出かけた憶いがある。体育のS先生の着任以来、夏のアルプス登山、妙高高原の冬のスキー練習なども他校にさきかけての活動であつた。ソフトクラブチームも都下で優勝したこともあつた。こつて「よく学び、よく遊べ」を文字通り、充実した学校生活をやつていたのが、竹早新制高校すべりだしの頃の趨勢であつたと思われ。後に建設された八ヶ岳山麓の竹早寮もこうした活動の延長線上にある。

去る平成五(一九九三)年八月半は、福室茂先生が亡くなられた。八十才であつた由。先生は竹早のこの新制高校発足の当時の立役者であつた。もう五十年近く前になる。戦地から引揚げて来たほやほや、半分いが栗頭で登場、FOXの名の通り口のどがった日焼けした精悍な顔であつた。教職員仲間では那珂先生とライバルでもあつたが、校舎問題では、中路校長をささえて奮闘、新制高校になつての数々のアイデアも、F先生の発想になるところが多かつた。英語の方では黒沢先生のライバルで、嫌われていた。趣味も多方面で、釣(江戸前のハゼ釣り)、書打(なご)、スポーツもやられたが、悪くいえば不器用であつた。

那珂先生、仲々の大もの、満州帰り、歴史学者の御曹子、東大出ということもあつた。角刈り、少し腰をまげ、チョーク箱と数学の教科書を片手に上衣の裾をチョークで真白にして教室を往復して居た。仲々授業も難しかつたのでは。

四回生で覚えて居る人は想い出すだろう。若村翠先生、これも数学、既婚で大きなお腹を抱えて和服で通勤。いよいよ産休をとられたとき、御主人の大学教授授課先生が代理の教員として、授業をしてくれた。授業係として感激々々、生徒も大感激。今は所沢方面にお住まいで健在。

登場したのが、「断乎たる居座り」と「附属中・高校など」は「教員養成機関そのものではない。殊に新設のものであつて、移管契約当時、存在もしなかつた施設が、従来からの校舎にはいれうる筈はない」という強硬方針であつた。事実は附属中学は旧師範の校地の南東側(現竹早高校の土地)を新しく求めて、第二高女とも関係のあつたE氏(生物教師)が主事となつて建設に懸命であつた。ほんの一時、創設当初の附属高校の一年が学芸大の教室を借りて入つたこともあつたが、二つの高校同居という奇妙な関係も附属高の世田谷本校へ吸収という形で解決されたことを憶えている。従つて学芸大側も、形ばかりの授業を、広々とした旧師範の施設を使って行なつていたよう、大学帽をかぶつた男子学生も、ちらほら散見するようになり、竹早高校のクラブ活動などにも、援けをしてくれる者もあつた。ただ、校地校舎の授業、クラブ活動などの分割使用協定は、過半分というところで、不充分極まるものであつた。

校地、校舎、いわゆる教育の物理的環境が、極悪狭小であつたため、先ず竹早高校のつた教職員に関しての教育目標は「授業を大切にしよう」ということであつた。当時次第に日教組を中心とした教育条件の緩和が強くなりかけていた頃で、「研究日」と称する一日の週日休日も土曜の半日におきかえたか何かで竹早高では助行採用されなかつた。もつとも時間割編成の都合もあつたけれど。

その他新制高校体制になつての諸改革の中でも、新機軸と称せらるべき竹早高独特のやり方があつた。

ホームルームは進駐軍の教育制度改革の中の目玉であつたが、それまであつたクラスの自由時間を一歩すすめて、担任は顧問ぐらゐで、生徒が自主的に議長を選んで、政治、時事等、諸般の問題を討論するといふような民主的運営のクラス時間であつたが、普通の中・高校では同一学年クラス単位であるのを、竹早では

紙同盟をやられた森先生(東大の数学科の秀才といふことで)、新米の担任間瀬チョンは大いに気苦労した。そうそうまだ岡章も講師として来ていた。

女性としては黒沢先生がNo.1。福室先生の英語をけなししていた。また組合の方でも、今はやりの女権拡大に奮闘、体も小さかつたので負けずらしい。大分たつて、短大か何かの先生をなすり、独身のまま、淋しく遊がれた。

当時の先生方は、竹早高校にはもう誰もいない。あの世へいかれた人も多い。健在の先生方も数少ない。

教職員ではないが、師範以来の守衛をやつていた木村さん。髭をたくわえいかにも酒さきらしい赤ら顔をしていた希さん。その下に、実直そのものといいたい、いがり頭の石井さん。小使室(のちに小使といつてはいけなくなつて用務員室)で、昼食用のお湯の世話(業權に大釜でわかしたお湯をいれて)をしてくれたり、ダルマストーブの石炭の配給をやつてくれた堀口翁さんや、持田のおばさん。堀口さんは年をとつても小さい椅子の上でジャッチョロ立ちをするのが得意であつた。

五十年たつた今、この文を記すにつけて、多くの先生方、他、苦勞の下つみをしていてくれた人、忘れられないことばかりである。

この文を書いている今、平成五年十一月半ばで寒い。当時は十一月になると、職員室、各教室の上の窓のガラスを一枚はずして、まるい穴のあいたブリキをはめ、ブリキの煙突を三階の上、屋上で林立させ、午前中だけ石炭を配給して、暖をとつていたものである。月に一回は煤うけの袋と掃欄の先のついた柄の長い煤掃きをもって、煙突掃除にきてくれた職人さん達もつづいたろう。

時も過ぎゆけば、人も逝く。わたしも既に古稀を過ぎて、十二回目の戌年を迎える。

(平成5・12・半ば)

竹 早 工



♪ こんなことやってま〜す

はじめに一言。

前号の会報に高校九回生(昭和三十三年卒)のお便りが抜けてしまいました。

「エコー」欄の原稿依頼は、同窓会の幹事さんではなく、学年全体の動向を存じておとうと思われの方にお願いをしております。いきなり依頼され、困った方、当番の方に回して下さる方など色々おられたようです。申し訳ございません。

原稿依頼から締切りまで、約四週間おくのですが、毎回締切り後に、原稿が殺到致します。昨年は、整理の最中に届いた物は、掲載しないことになったし、封も開けずじまいにいたしました。

その中に、九回生の原稿が入ってしまいました。誠に申し訳なく、心からお詫びいたします。

☆高女十四回☆ 大正三年卒

深沢 てる

また一年生きのび九十八才の朝夕は、なんとか人手をかりず、自分の部屋掃除、庭先の水やり、入浴等一人でやります。来客も、一日に一人か二人は必ず見えます。有り難いです。孫の家族と同居しておりますと話題も色々、勉強になります。

その日、その日をよきにと思えばかり、氣力は健康のもと。

☆高女十九回☆ 大正十九年卒

齊藤 芳野

第二高女十九回卒業生の私の同期生は、四人きりになってしまいました。クラス会も昔は、わりに豪華な所でありました。何々年記念だったかには、六本木の国際文化会館でやった事もありました。が、だんだんあわれになって、しまいには渋谷のデパートの食堂ですらうになりました。そして現在は年賀状と電話のやりとりとなりまして。

京都の目下部さんは、ずっとお嫁さんと仲良くお暮らしです。青梅市の老人ホーム的慶友病院に移られた石川さんもお元気です。横浜の中山さんは、四方山のお話を花を咲かせましたが、最近病気がちになられて、淋しくなりました。これからは水の流りに沿う様に生きていきたいと思っております。

☆高女二十二回☆ 大正十一年卒

向坂 ゆき

九十才となりました私たち、とうとうクラスの室、村瀬幸子様をなくしました。一九九三年十月九日、公演先前橋市にて急死。十五日、千日谷会堂にて俳優座劇団舞。クラスから花輪を捧げ、代表して峯島鯉子様と私が参列いたしました。クラスの皆様もお別れをなさりたかった

でしように、思うにまかせぬトシとなりました。遺された私たち十六名せいせいがんばりましょう。ご病気の方々もお元氣になってください！

ひとすじの道をつくして

君逝きぬ

劇団葬も心こもりぬ

その舞台死にきわみまで

はげまれし

君がいさをしとわに輝く

夜の部を終えて翌朝

逝きしとふ

舞台の鬼よ君はともしも

☆高女二十六回☆ 大正十五年卒

木村 陽江

二十八名が無事八十五才を迎えております。昨年五月、目黒の都ホテルでのクラス会十数名集まり、互いに四方山話。楽しい時を過ごしました。来々からはこの様にはいかないと思われ、電話連絡で随時という事に決定しました。

山内様もご主人様ご高齢でお出にくくなられ、秋山様は九十才を過ぎたご主人様共々お元氣でお忙しい日々のおようです。鳥羽様ご自身の長いご病氣克服、今はご主人様のお食事作りをお仕事としてお暮らして。

あのお元氣でした大河原様、ご主人様のご看病のあと、ご自分が原因不明で三十キロ余りに瘦せられ、電話のお声はお元氣ですが、外出もなさらず久しくお目にかかりません。

砂川様はお仕事をやめられ絵を描いたり、ゆっくりしたご生活。

菅野様はご主人様お見送りの後、お住まい片づけ、武蔵境のホームに移られ、お忙しいうちにもお元氣です。

一番若々しくお元氣なのは、樞端様で、旅行、お勉強等々。

田中様は流山市に移られ、土地にも馴れお元氣で、いつも前向きの生き方をなされ、私もお近いので何かとお世話になり助けて頂いております。その他の方々

も、あちこち痛かったり、多少の事はありと思いますが、此処まで一緒に生かされて頂ました事、心より感謝申し上げます。

☆高女二十八回☆ 昭和三年卒

福田 千菊

昨年三月、学士会館での墓寿会には吉村文代、石田布佐子、百瀬富美子、松宮はつ子、福田千菊の五人が出席致しました。

また十月十二日には、クラス会を一年と同じ新宿住友ビル五十二階の店で開きました。出席の方は、市川園子、青木敏子、戸塚敬子、成瀬とき子、中村栄栄、正木みち、松宮はつ子、福田千菊の八名。当日はお天気もよく、久しぶりのお顔合わせに皆様お元氣に、賑やかな会合となりました。次の世紀までがんばりましょうと勢いのよい言葉まで出て、再会を楽しみに散会いたしました。

この楽しい会合の前日、この会のお世話を下さる筈だった和静江様が、お亡くなりになりました。松宮様と私でご弔問に伺いました。お仕事をなさっていたこともあって、大勢の御弔問客でございました。ご都合でこのクラス会にご欠席の杉様、石田様もお元氣、金森様、河本様もお仕事、右田様は岐阜の方で、皆様お元氣の模様でございます。

年に一回のクラス会でございますので出来るだけ皆様のご都合を考えたかと思っております。ご予約を係まで、お知らせ下さいませ。

☆高女二十八回☆ 昭和三年卒

荒井 きく

私達は平成五年五月十八日、ホテルニューオータニ六階にある懐石料理の「なだ万」で、春のクラス会を致しました。「なだ万」のお座敷からの眺望の素晴らしいお座敷の前方に広がる見渡す限りの緑の森を背景に、美の限りをつくした日本庭園の風景は、

れて、担任して頂いた守中みよ先生からお便りを頂きました。昔クラス会にお呼びしたことを思って、またご出席いただけるかと考えました。でも外出はご無理とのこと、昨年十一月二十二日、つくば市の先生のお宅をお訪ねいたしました。お家で先生はともお元気、九十二才の先生と七十八才の教子とは、昔の二十代のお若くて、やさしい先生と世間のたつたのを忘れませんでした。帰りに、ご門の外迄お送り下さいました。その折の先生のお姿、クラスの皆様にお目につけたかと思ひます。



今年のお祝会朱筆会は、五月頃を予定しております。多数の方々のご出席をお待ちして居ります。

☆高女三十三回 ☆ 昭和八年卒

私共三十三回卒業生は、昨年卒業六十周年を迎え、甲組二十二名、乙組十一名の参加を得て、クラス会をいたしました。戦中戦後の混乱の時期を経た後は、主任の福田(旧市川)、大橋岡先生のご存命中は、甲組乙組代わる代わる幹事を務めて参りました。今後も元気にクラス会に出席出来よう願っています。

☆高女三十五回 ☆ 昭和十年卒

私共三十五回昭和十年卒の者達は、喜寿を迎える齢でございますから、昔ながらよばよばおばあさん、今では平均寿命にも達しないところ。私らそれなりに衰えてはおりますが、クラス会はございませぬが、まだ皆さん、はりきって、五、六人の集まり等おちこちでござい

いらっしやる様です。また一方計報もございまして、最近では、大野英子様、豊田節子様、新井節子様、お亡くなりになり淋しい事でございます。

昔を思い出しますと、我々の女学校時代、昭和五年から十年、不況の時代とは申しましたが、我々にとっては、平和なよい時代だったと思ひます。

東京の街もビルも少なく、車の騒音も少なく、静かなたたずまいでございます。夏の夕暮れには、こうもりが飛び交い、秋には夕焼けの空に雁が、列をなして渡って行く、そんな光景が思ひ出され

卒業後はそれぞれに、結婚、育児に追われ、次第に戦争に突入して行くといつた、恐ろしい時代でございます。平和な時が私共の青春時代。我々には一様にのんびりした時があった様に思われま

☆高女三十六回 ☆ 昭和十一年卒

私共三十六回紅組は、恒例の年一回のクラス会を続けております。

平成五年十一月四日、渋谷で二十一名出席、楽しい時を過ごさせて頂きました。一年後輩の三十七回生に刺激されて、平成六年六月、田淵記念館行きを一泊で挙行することになりました。六十三年前入学と同時に先生から写真の個人教授を



受け、現象から焼き増し、引き伸ばし、細かくご指導頂いたわくわくした少女時代の思い出が微笑ましく思い出されます。三十七回の方々に旅の御指導を頂きたいと存じます。よろしくお願ひ致します。

動まし合い、生きていきたいとおもいます。

☆高女四十一回 ☆ 昭和十六年卒

昨年のクラス会は、級友山本仲子様が七宝焼の大家として、平成四年秋に紫綬褒章を受けられたお祝いをかねて五月に新宿小田急ハルクの「大志満」で開かれました。

服部先生、ご欠席で残念でございます。若い頃、お年寄りと思っておりました。古稀を私共も迎える年となりました。今年も幹事のお骨折りで、五月ごろ、クラス会が持たれる予定でございます。

服部先生、腰を痛められて藤沢の病院に、ご入院中とのことです。お元気に過ごして下さることを祈ります。お住まいの近い関根小枝子様、松本紀子様、山口隆子様には、色々お世話をおかけしております。感謝申し上げます。

☆高女四十二回 ☆ 昭和十七年卒

一九九四年の暮あけは、先ず新年会から始まりました。昨年は、三月の篤寿会が始まりました。例年の通り、本会が終わってから、別室でミニクラス会を持ちました。(また茶とお茶)約一時間、皆でいろいろ誰と誰が、或いは誰が誰に喋ったかわからないくらい、楽しくお話ししました。次は七月にまた竹早八ヶ岳寮へ、十数名で出かけました。今年は霧に恵まれ(?)、ポーツとした牧場や、手さぐりの清泉など愉快でした。

また柳生博さんのレストランでランチをゆつくりと頂いて、お庭の散歩・陶芸品・金属工芸品など鑑賞しました。

さて次は、ホンモノのクラス会を十月に開きました。きれいななった雅叙園で中の美術館も、レストランとのタイアップで観賞でき、あとはすていお庭を眺めながらお茶など。(でもこちらは些か高いのだ。優雅賞?か)

☆高女三十六回 ☆ 昭和十一年卒
日下部 房子
平成五年は六月と十二月の二回、目白の椿山荘でクラス会を致しました。出席者は十二名。

本年は、春頃クラス会の予定です。本年は喜寿を迎えますので、お祝いを兼ねてのクラス会です。皆様ふるってお集まりくださいませ。

☆高女三十八回 ☆ 昭和十三年卒

瓜生田 俊子
一九九三年十月二十九日に、目白駅近くのリッチモンドホテルで三年ぶりのクラス会を開きました。

紅組から参加して下さった大谷月子さんを入れて、全部で十三名出席の会で嬉しく楽しい時を過ごしました。



七十一、三才になっても、皆頭がしっかりしていて、思い出話に花を咲かせました。その時の写真をお目につけて下さる。

夏に、石原敬子さん、暮れに磯崎尚子さんを失ったことは、大きな悲しみですが、次のクラス会や、篤寿会等で、一人でも多くのクラスメートに会いたい、それを楽しみにしています。

☆高女三十九回 ☆ 昭和十四年卒

大原 祥子
月光を浴びながら、屋上で、ファリストを踊り、別れを惜しんだ昭和十四年三月の卒業式の夜が、五十五年たった今も、昨日のように思ひだされます。

あのとき、皆で、いつまでも必ずクラス会には会いましょうと誓って別れましたが、年々、色々の事情で参加する方が少なくなり、昨年の四月十三日、新宿のヒルトンホテルでの赤組のクラス会も、わずか十四人。膝や腰が痛んだり。血圧

次は十一月初旬、沖繩二泊三日、十五名の旅行でした。三日間快晴、白い砂コバルトブルーの海、鮮やかな花々。殆ど真夏の陽射しの中で、思う存分のびのびと楽しみました。再現された首里城も昔を偲ばせるさすがのものでした。あまりの暑さに、ストロークハットを千八百円也



で買ったり、わたあめを少しずつ食べた。帰ってから、しばらくして、写真の交換会で、ほかの方も交えて、またお食事会。とにかく「今年も何回も会えてよかったわね。」というしめくりでした。今年も何回も会います。旅行はまた八ヶ岳と、秋は山陰へ行きます。

☆高女四十三回 ☆ 昭和十八年卒

高木 美和子
高女四十三回卒業の私共は、平成五年に卒業五十周年を迎え、五月十七日、ホテルエース高輪で記念のクラス会を開きました。

お元氣な藤井先生をお迎えして、級友三十四名の出席で盛会でした。近況報告その他楽しいひとときを過ごし、とても半世紀も経ってしまつたとは考えられず、話の通じあえる級友を何よりの宝としみじみ感じました。久々に出席の方など、話も尽きず、閉会後は、近くの泉岳寺に参詣いたしました。

次回も健康で多数の方が出席出来まようように。

☆高女四十回 ☆ 昭和十五年卒
稲葉 良子
平成五年五月十九日に、古稀のお祝い会と銘打って紅組(十五名)、白組(二十名)の合同クラス会を青山ダイヤモンドホテルの和室で行いました。人生の節目を意識されたのでしょうか、それと皆様のお誘い合わせと相まって、大阪や大津などからの出席があり、会はいやがうえにも盛り上がりました。合同クラス会ということから、話題はいきおい、五十年前にタイムスリップ、戦争中の学園生活にとっぷりつきり、「古稀にして迷わず」という結論に達した訳です。

篤寿会、墓会総会、墓会館などの行事には、それぞれ有志や代表が出席してはいますが、これからもなるべく大勢の方に出席していただくようにしたいと願っております。

平成六年は五月中旬にクラス会を行う予定です。それにグループのミニ集会もさらに発展させたいとおもいます。とは申しましたが、私共は、一年一年を大切にしていかなければならない年齢であることも確かです。折にふれ集まらって、これからお互いの健康を守り、



☆高女四十四回 ☆ 昭和十九年卒

竹澤 英子

昨年のクラス会は、一寸意を添えて下町情緒あふれる浅草に致しました。小春日和に恵まれた十一月二日、皆様よく御存知の浅草寺五重塔前に集合、仲見世通りにお庭をみせて頂くのが目的でした。一歩立派なご門を入るや外の賑わいは別世界、幽玄な小堀遺州作と言われる池畔回遊式のお庭が展げます。

みんな大きな鯉や亀の泳ぐ池に佇み、また木漏れ陽の中、山茶花の花等愛でながらの散策に、秋の風情を満喫しました。あとは皆様それぞれに、仲見世のお店を覗きながら、一時までに、雷門前通りを渡った所にある、川松別館に集まっていたべく事にしました。直接お食事の会場にいらした方も交えて、二十七名、盛会でした。その日出席されなかった方々の消息を報告しあい、美しい女将さんのあたたかい、おもたなしと、美味しい季節のお料理に感激しました。

来年は卒業五十周年に当たりますので、新しい名簿に全員の方々の一言づつ等添えたい事と、関西の方々のご好意により、京都での開催を決めて、楽しみを胸に解散致しました。当日のスナックは、希望により、欠席の方々にも、後でお送りして大変喜ばれました事をご報告致します。

☆高女四十六回 ☆ 昭和二十年卒

安永 道子

太平洋戦史を執筆の為、基本調査中の神野正美様から、突然電話をいただいた。昭和十九年十二月中旬、香取海軍飛行場（現九十九里浜旭市付近）へ女先生に引率された生徒十数名が、自作の屋の天測データーと慰問袋を持って来られた。確かに昭和二十年春、卒業の方々のデーターが航空パイロットに大変役に立った。

今、神野様は、当時のパイロットの方々と高女の方々の再会を企画中。昨年とは総会幹事明けのこともあり一年お休みをしましたが、皆様とお会いするのを楽しみにして居ります。

☆高校三回 ☆ 昭和二十六年卒

高木 萬里子

平成五年度は、私どもが算会総会の幹事学年でした。御代喜久子さん、森本美智子さんを中心と同期生多数が、準備のために、そして総会当日、それぞれ懸命に働きました。あいにくの雨にもかかわらず、多くの皆様のご参加を得て、つづがなく総会を終えることが出来、一同ほっといたしました。閉会后、松本様の一室を借り、反省会をかねた同期の集まりを持ちました。

出席者五十名、一別以来四十余年のお顔も見え、楽しい一時を過ごしました。本年は、お待ちかねの同期会を秋に予定しております。後ほどご案内をさせていただきますので、どうぞよろしく。

☆高校四回 ☆ 昭和二十七年卒

藤井 由子

終戦の翌年、都立第二高等女学校に入學した私達、その後学制改革で次々と校名が変わったり、多くの編入生や五名の男生徒を迎えたり、統制りのホームルームを体験したり、賑やかでユニークな、中学・高校と続いた六年間を過ごしました。そのせいか、クラスを越えた学年の結びつきが強く、卒業以来ずっと原則として毎年一回「柴竹会」という名の同期会を開いています。この名前は、竹早四回生の「四」と竹早に縁の深い色「紫」に因んでつけたもので、私たちはとても誇りに思っています。最近では時間的に余裕ができた人達も増え、奥多摩へ梅見館で行ったりしました。去年二月の茗溪会館で開かれた柴竹会には、久しぶりに、佐賀、小野、加藤、織戸（小宮山）の四人の先生が出席して下さい、参加者三十

敗戦間近、学校は工場となり、傷痕軍人の白衣縫いや弾丸ケースづくり明け暮れた経験は持つが、その高女の方々というものは、私達ではない。最近神野様の「ご努力で急遽小学校教師を育成する為の専攻科の方々（師範とは別）と判明。園のさゆり...」（故郷を離れる歌）と共に歌った上級生である。この紙面に登場してないクラスなので、年一回平和にクラス会を開ける私達の話はさておき、五十年ぶりの秘話逸話をお伝えしおき、おんな先生は故黒沢ミツ先生。住所不明の方多く記憶も薄れていると思いますが、新情報ありましたら、神野様に協力してあげて下さい。

☆高女四十七回 ☆ 昭和二十一年卒

吉田 穂子

昨年の十一月一日、東京の真ん中、マキシム・ド・パリでクラス会をいたしました。残念なことには河治春世先生は病後で、外出はまだ難しいとのことでご欠席でした。先生は七月に肺炎を患われ、その後背骨骨折をされたそうです。クラス会終了後、幹事さんに、皆様の寄せ書きとお花等を持ってお見舞いに参上していただきました。思いの外、お元氣のご報告に安堵いたしました。

今回の出席者は三十一名、北は宮城、南は福岡から、また卒業以来初めてお目にかかる方等、懐かしく時の経つのも忘れて、お喋りを楽しみました。終わりに、田島様が、日頃地域や学校を中心に活動されている「正しい性教育を身近な所から始めていこう」という内容のお話をして下さいました。

住所の分からなかった中村（長坂）摩耶子様が、二年前に亡くなられていらしたという悲しいお知らせもありました。謹んでご冥福をお祈り致します。次回幹事さんは、朝倉綾子（衛藤）様にお願ひしました。今年も昨年同様、十一月頃にクラス会

八名、白髪や皺が増えても、会う時はいつも女学生気分、それはそれは賑やかで楽しい時を過ごしました。今年も、算会の幹事学年とあって、皆で役割を分担し、和気あいあい、準備を進めています。大勢の皆様のご参加を心からお待ちしております。

☆高校五回 ☆ 昭和二十八年卒

八木 茂太郎

昭和一の最後を飾る？我等五回生は成年一。今年には還暦を迎えることに。各界で活躍する友人達も、四、五年前には竹早高校の門をおおすおとくぐり、まだ旧制府立第二高女の誇りと名残りを堅持される怖い先生や賢い上級生のお姉様方（間違ってもセンパイなど）と気安く呼んだりしなかったに叱られたり、面倒を見ていただいたりしました。

当時の母校は都の実験校的存在で①ホーム・ルーム制（タテ割り）でA、Lまでの十二ルームに一、二三年生が同教在籍）②単位制（必須科目以外は自由に選択）③理科系は、全校生徒が学年に関係なく入り交じって授業を受けられた④五日制の導入（昨今週休二日が普通になつてきたようだが、竹早では先駆けて土、日休み——よかつたナ——これ！！）など九年生までは、戦争戦後の学生改革に翻弄され、その激変振りには枚挙に暇がないが、紙数の関係で具体例だけを列挙してみる。

小学校→国民学校
サクラがサイターアカイ、アサヒ
ハホト、ドミン
テフテフ、トウチョウ
となつて遂には帝国憲法から新憲法へ人権とか民主主義とかをたたき込まれ、机も教室もないメチャクチャな、けれど自由で楽しい中学三年間を送った共通体験を持つて居るのです。故に結束は堅く二年毎の同期会も幹事諸氏の変わらぬ熱意

を予定しています。平成八年の算会私達は当番学年です。楽しい会になるよう、クラスの皆様のお知恵拝借、よいアイデア等ございましたらご一報下さい。

☆高女四十八回 ☆ 昭和二十三年卒

白鳥 洋子

一年の早きにまたしても驚きます。私共の月一度のコーラスは続いており「三歩前進四歩下らない様三歩で」とどめたいと願いつつ、友好を深める会になってきております。

なほ十月十三日にクラス会を開きました。六本木のセンチチュリーコートに、塩崎先生、加藤先生をお囲みし三十名集まり、幹事の磯部、北村、小林の努力で楽しい半日を過ごしました。

又、私ごと京都に数年住まうこととなり、関西の算会に出席させていただきます。平成五年は、四十八回生が当番で、小路、小西、尼留、福井、森下が幹事でした。

十月二十一日大阪中之島の竹葉亭大阪本店に於いて二十八名集まり盛会でした。美味しいものをいただき、たくさんおしゃべり出来て、上品な会で、出席できず幸せでございました。今年も健康でと願っております。

☆高女四十九回 ☆ 昭和二十四年卒

鮎澤 和代

今回は悲しいお知らせをしなくてはなりません。私共、高女入學時より担任をして頂いた福室茂先生が、かねてより病気が療養中のところ、平成五年八月十五日ご逝去されました。享年八十才でした。ご葬儀には、先生の教え子が多数参列して、お別れをいたしました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。本年は四月にクラス会を開く予定です。

来年（一九九五年）の総会は、五回生が当番。近日中に同期会を開いて、企画や役割分担を決めます。同じく次回幹事の二十六回（四十九年卒）と四十六回（今年の新卒）の方々、乞うご協力！
待っご連絡
〇〇四七一（四三）五七四九 八木
〇〇三（三九二九）一六八八 谷口

☆高校七回 ☆ 昭和三十年卒

志賀 真砂子

平成六年度は、時期は未定ですが、秋頃同期会を予定して居ります。日時が決定しましたら、各自宛お知らせいたしますので、多数ご参加下さいませ。

学生時代から仲良く付き合ってきたグループというものがございます。卒業後も、それぞれの人生の折り目毎に、顔を合わせ、より深く交際は続きます。

同期会開催となりましても、その仲間達とは、しょっちゅう顔を合わせていますので、特に出かける意欲が湧かないのも致し方ありません。しかしそれでは同期会の発展はなく、徐々に、さびれて行くばかりです。

どうかお仲間ごと、会に参加なさいまして、フレッシュな顔触れに会い、旧交を温めようではありませんか。私はどんな会に出席した折でも、何か一つ自分の人生に彩りを増やすものとか糧となるものを得て帰る様に感じています。まして懐かしい高校同窓会においてをやです。

☆高校九回 ☆ 昭和三十三年卒

岩野 龍好

平成四年七月、野村クラブにて、昭和三十三年卒の第一回竹早九算会を開催しました。

今回は教科担当の先生のご参加をいただき、中野、辻、間瀬先生がご参加下さり、総勢六十七名に達し、盛大でした。卒業以来三十六年振りに再会した方も多く、思い出話に花が咲き、久しぶりに青春時代に戻り、楽しい一時を過ごしました。各クラス単位での同窓会は催している様ですが、全クラス合同の会は、今回で二度目です。

今後は二年毎に開催することが決定しました。

今回出席されなかった方は、今年予定の第三回竹早九重会には、是非ご参加下さいませようお願いします。



前年1月の奥日光旅行会

☆高校十回 ☆ 昭和三十三年卒 角掛 隆

私達は二年に一度同期会の総会と毎年六月初旬の土日に全会員対象の旅行会を白樺湖のホテル・フーラム（メンバーにホテルのオーナーがいるので）で行っています。その他新年会・忘年会・大山阿夫利神社参り・暑気払い等の名目で会合を一年に何回も行っています。昨年は気分を変えて旅行会は十一月に奥日光へ一泊旅行を行い、今年も都内で秋に同期会を行いますので宜しくお願いします。

同期会で不明な事は不肖万年幹事の私達に気軽に聞いて下さいませ。

☆高校十四回 ☆ 昭和二十七年卒 山内 亨

一九九四年度、同期会を六月四日（土）に開催します。

今回は、上野・池之端文化センターを舞台に、今年で半世紀を越えたお互いのドラマを、全員が話すことのできる企画も含め、一段と内容の濃い集いになります。

☆高校十九回 ☆ 昭和四十二年卒 三城 順子

私達は高校時代、男女別クラスだったため、あまり男女間の交流がない学年でした。しかし、昭和六十一年から男子だけで始まった同期会が途中から女子も加わり、毎年春に開かれています。岡野、桑原、織戸先生などもみえ、参加者も例年百名前後です。スペイン旅行などの大抽選会も好評です。

高校時代一度も話したこともなかった男女間にも、新しい交流の輪が広がります。

今年の同期会は五月二十九日（日）十五時より池袋で開かれます。同期会の名前も皆に募集して、正式につける予定です。

連絡先：横山健介様
〒105 葛飾区東金町三三三十五一
なお、C組は昭和六十二年（卒業二十周年）からクラス会も開いています。同期会だけに話もありましたが、織戸先生を囲んでの少人数の会もゆっくりに来てよとの声で続けることにしております。

連絡先：小堺美代子様
〒102 上尾市西宮三三三十四一三

☆高校三十一回 ☆ 昭和五十四年卒 八島 等

私たちは、同期会ということはないとありますが、クラス会は卒業後もほぼ毎年行っています。同期の他のクラスもクラス会を同じように行っているのではありませんか？

私たち三三三がこのように定期的に行えるのは、幹事を引き受けてもらっている鈴木隆君のお蔭なのです。

私も重会のクラス代表ですので、学生時代は幹事を引き受けましたが、就職後はすっかり鈴木君にお願いしてしまっている次第です。鈴木君に感謝の意を表したいと思います。

今年もクラス会を開くことができれば

す。既に一月二十九日に幹事会を開き、準備を始めました。（写真参照）前回は、前々回と百名に及ぶ参加を得て、恩師も交えての語り合いに、楽しいひと時を過ごしたことが、昨日の事のように思い出されます。



河合塾で教鞭を執られる江渡先生

生、次々に語学を習得され、第一線で活躍される本多先生、米寿を迎えられ益々お元気な花木先生を始め、鹿見島、富山、京都ほか全国各地から集られた同期のメンバーとの名残なき一日が、十五時、十八時を一部、二部形式で計画、二部では豪華景品も当たるチャンスも設けて、彩りを添えます。

今回も打合せ会場は星野さんをお願いをし、各クラスの幹事の献身的な協力をいただき、進めております。ご招待状は会報の到着する頃には、着いていて頂きますが、クラスを越えて声を掛け合って頂き、大成功の同期会になるようにご声援とご協力をお願いいたします。

☆高校十六回 ☆ 昭和三十三年卒 相田 義正

昨年五月十五日、銀座サロン・ド・サンクに於いて、同期会を開催いたしました。藤原澄子、小林新三、青木茂、佐藤仁、小野政吉、そして加藤興三郎の諸先生方が元氣なお顔を見せてくださいました。なんと小林先生は新潟からのご出席でした。

同期会は、五十嵐、中尾（石倉）の司会が始まり、先生方のご挨拶をいただき、早世された権沢、本田、松山に対し、全員で黙祷の後、金沢の乾杯で懇親会に入りました。昔話や、現在の情報交換と二

よいと思っています。クラス会の参加者がどうしても固定してしまうので、一人でも多くの同級生が参加してくれることを望んでいます。また、鈴木君以外に幹事を引き受けてくれる方が現れてくれれば、鈴木君も楽になるのではないかと思います。

☆高校三十四回 ☆ 昭和五十七年卒 大津 慎一

サンシャイン60の一室を借りて、クラスの枠をはずして、大々的に開いた成人記念パーティ。あれから、十年経ちました。東京にいる者あり、関西や海外にいる者あり。仕事に熱中している者あり、育児に追われている者あり。皆それぞれの道を歩んでおります。

六月には、重会会員名簿も発刊されます。この機に何かイベントをとお考えの方がいらしたら、協力を惜しみません。ご連絡下さい。

〒107 豊島区千川二一四一三

☆ブラスバンド部 ☆ 田中 栄太郎

梅が花を落とし、桜が蕾をふくらませた頃、竹早高校にも新たな旅立ちと出会いが生まれます。今年も私達吹奏楽部は新しい部員を迎え、竹早の新校舎に若々しいサウンドを響かせています。

この一年間を振り返ってみると、吹奏楽部にとって大きな意味を持つ一年だったと思います。昨年の五月八日にはOB、OG会主催の「都立竹早高校吹奏楽部三十周年記念特別演奏会」を成功のうちに終えました。これをお祝みになっている方の中にも、足を運んで下さった方がいらっしやうと思います。ありがとうございます。その他にもOB、OG会として、現役の後輩達に指導や助言、援助をしています。

現役の部員達は、現在六十名を越える程となり、今も毎日、技術の上達と音楽性の向上を目指して、がんばっています。

時間は瞬く内に過ぎてしまいました。A、B、C、D、E、Fの二組に分け、記念撮影をし、懐かしい校歌を現役の音楽部の歌うテープに合わせて、たどたどしく歌いました。そして青木先生の手締めめでめでたくお開き。その後は、なんと八十名が二次会に残り、声の潤れるほど青春時代の思い出を語る姿には、決して衰えは見えませんでした。しかし隠せないのも衰えで友の姿を見て、自らを慰め合った時間だったのかも知れません。もし、またこんな会が開かれることがあるとしたら、もう少し薄くなった、そしてもっと白くなった髪と深く刻まれた皺の、お互いの顔を見分けるために、老眼鏡を忘れずに。もし、誰かがこんな会をしてくれるなら、そして、その時も出席したいなら、引越しの時には、N、T、Tと東京電力とガス会社、そして竹早の誰かに連絡だけはしておいたほうがよさそうですね。

☆高校十七回 ☆ 昭和四十年卒 對崎 俊一

平成五年は、松原コト先生にご参加いただき、有志十数名で八ヶ岳へ一泊旅行を行いました。

昨年の夏は、全国的に天候不順でしたが、我々の旅行は大変な好天に恵まれ、さわやかな高原と素晴らしい山岳の景観に魅了されてきました。

竹早も財団法人竹早会の皆さんのおかげで、極めて快適な施設として維持されており、夜は暖炉に薪を燃やしながらか、竹早会理事長の岩田隆子先輩にも加わっていたら、放歌高吟には及ばないで、品格を保った歓談に花を咲かせた次第です。

平成六年の行事予定は今のところ、格別たてられていませんが、八ヶ岳への旅行会は再度実行してみても良いかなと思っております。



後記

今年もまた多くの同窓の皆様のご協力により、「エコー」欄が埋まりました。七十五名に原稿依頼し、四十一名の方が原稿をお寄せ下さいました。本当にありがとうございます。特に九十才以上の大正初期に卒業された方々、ペンを持ち、書くことさえ儘ならない中、真先にお返事下さり、心からお礼申し上げます。

同期生の動向など、関係のない者にはつまらないというご意見もあります。私自身、まとめて「つづらない、こんな事していいの？」と思うこともありました。そこで改めて、「エコー」欄の使命を私なりに考えてみました。

「エコー」は、重会という大きな池に投げられた小さな石ではないか、石は池に沈んでしまいが、池の表面には小さいが、でも確実に、波紋が広がる。それがどんな波紋か、どのように広がるか分からない。でも淀んだ池に波紋を起しているのが、ひょっとして「エコー」の役目ではないか、そして石を投じているのは私達編集委員であり、石は皆様から寄せられる原稿ではないか。石は、三年目にはいくらか大きくなりました。今後はこの石にちょっと色をつけたりすることも考えてもいいのではないかとおもいます。

終わりに、お願いがあります。編集委員になつて下さい。出来たら、都内にお住まいの方。会合が夜ありますので。編集委員希望者は編集長までご連絡を。以上



以上



アメリカの教師として

大町 眞須子(高校四回)



まだまだ若いとおもっている中に何時の間にか還暦を迎える歳になっていました。父を六年近く前に亡くし、先日長年患っていた母を亡くし、私も同学年の大多数の皆様がそうであるように孤児となりました。祖国を離れ他郷にいて両親を亡くすということは、日本で暮らしていらっしやる方々には分かって頂けない淋しさがあるようです。

アメリカで暮らすようになってからはや三十五年の月日が経ちました。此方に来た頃は日本に電話をするのもなかなか大変で、国際電話の交換手を通した後に一時受話器を置いて待っているのが常でした。そして海が荒れていた時には、相手の声が殆んど聞こえないような状態でした。それが今では直通。どんなに海が荒れている時でも、雑音一つ入らないようになりました。又、私達が高校を卒業した当時には何も無かった電気製品が、そしてハイテクの新製品が市場を賑わせている時代となりました。その間に日本は世界の経済トップの国家となりました。アメリカのドルの暴落には一寸困っていませんが、日本の経済発展は、アメリカに住んでいる日本人として本当に誇らしいことでした。

そのような時代に私は日本人の教師として、こちらの公立小学校でアメリカの子供たちに、此方の国語である英語の読み書き、また、他の科目も全て英語で教えてきました。教え始めた三十年前には小学校に入学する子供の数が非常に多く、教室も教師も不足している時代で、日本から来て間もない日本人の私に、一年生の落第生ばかり集めたクラスを受け持たせてくれました。分らないことばかりでしたが、ノイローゼにもならず無事に最初の一年を終えることができました。言葉も段々と上達し、此方での教育方法も分かってきたのか、小さい子供を教える事が楽しくなってきました。二十七年間の教員生活の間いろいろなタイプのアメリカ人に出会いました。おかげで世間知らずに育ってきた私には良い人生勉強になりました。

私も定年迄は教えたいと思っていました。近年乳癌の手術、他の手術などを受けたため、医者からの勧めもあって、学校の方は少し早めにやめさせて頂きました。その間には、東京の龍溪書社からアメリカの公立学校教育に就いての本を出して頂きました。NHKで「世界の教育」というプログラムを構成された時に、アメリカの教育状況も紹介されました。その折には、私の教えていた学校にも来て下さり、私のクラスで撮られた場面も入っていたようでした。又、アインシュタインのフィルムを制作された時には、アメリカの科学者の方々のインタビューの交際をしたり、通訳もさせて頂きました。アインシュタインのお友達の一入、その当時(四年ぐらい前)になりました。九十才になられた科学者のドクター・ホイラーにお会いする機会も得ました。つい最近東京のくもん出版より「プメ



リカ、小学校の挑戦」という本を出して頂きました。お読み頂けたら幸せに思います。

退職して以来、日本語の講座を開かないかとか、コミュニティの成人教育で日本語を教えないかと、お勝いがありましたが、あわただしい生活を何年も続けていたせいとか、退職後のぼけーとした日々を楽しんで居りましたが、三年前にテレビ教師の仕事をしたかとお勝いを受けた教育テレビ局から、一九九三年度の九月から、新しい試みとして、アメリカ全土の中学生向けに「外国語概論」というプログラムを計画したので、その中の日本語と日本文化を受け持ってくれと頼まれ、結構興味を持ってそうなので、する事にしました。三月の末から五月の末までの九週間が私の出番となっております。現在はその教材作りを精進しています。

アメリカで生活した年数は多いですが、幸いにも毎年学校の夏休みを利用して、日本で二、三か月ずつ過ごすことができたため、日本語を忘れた日本人にはなっていないです。そして、竹早のときの同窓生の何人かの皆様とも、ずっとお付き合いさせていたいただいております。

最近ではやはり還暦を迎える歳になっただせいでしようか、今まではおいしく食べていた脂っこい肉料理が急に嫌になり、日本食を食べに行ったり、又、家で作って食べる回数が増えたり、又、家で作って食べる回数が増えたり、又、家で作って生活できたら、自分の人生にも満足するのではないかと、思うようになりました。私は何時まで経っても東京で生まれ育った日本人なかもしれません。

最後に黨会の皆様のご健康をお祈りすると共に、黨会報に書かせて頂く機会を作って下さった役員、幹事の皆様にも、厚くお礼申し上げます。

一国の消滅の中の

ドイツ暮らし

斎藤 瑛子(高校四回)

竹早時代...あの頃、夢見ていたのとは随分ちがう人生を歩んで来たものだという感慨と、やはり私も「他聞に漏れず三つ児の魂百までたわ、とおかしがる気持ちがない交じる思いで、今さまさまを思い出しています。

とりわけ、十年前に五十歳をベルリンで迎えた頃は、怪しくなっていたドイツ人の夫との間のことなどもあって鏡に映る顔立ちが日夜嫌んでゆくようなのが口惜しく、「これからはもっと優雅に歳をとるようになさるちゃー」などと勇んでみたりしていました。それから十年。本当に公私ともども「目まぐるしい」の一語に尽きる歲月でした。

まず離婚。同じようなことに悩む苦しむ女友達には、相談されれば、別れが早ければ早いほど立ち直ることも出来るわ、などと小賢しく意見してきたものを、わが身にふりかかってきた災難のまえには、はたからみればきつとみつともないほどに、動揺し取り乱しもしてしまいました。夫が私の教え子で、私達夫婦が共に教鞭をとっていた東ベルリンのフンボルト大学日本学科の助手をしていたドイツ人女性と特別な関係にあるという噂を耳にしなかつたわけではないけれど、まさかと思いたい気持ちの方に身を寄せて難を避けて通そうとしていました。そうこうするうちに、「二人がいっしょになるまで」にことが進んでしまい、私が五十歳を過ぎて数か月後、二十四年四か月の結婚生活は解消となったのです。その前後は心身共に参ってしまいました。でも今から振り返ってみると、こ

した体験を通して学び得たことも数々あるように思えます。今は地球上から消えてしまった国一私はその国に三十九年暮らしてきたのですが、旧東ドイツでは、離婚はいかなる場合も夫婦双方の共同責任でした。夫が他の女性に走ったことが直接の理由ではあるけれど、そこに至るまでには私の側にも落度があったの思いは、痛みついていた当時の私を二重にさいなみました。

あの時もうこうすればよかった、あんなことを言ったりしなればよかった、などと。けれど、すべては後の祭り。それにしても、あの人は彼女ともう一度やり直しができるけど、五十を過ぎた女で、まして日本人の私はいくら反省したってまずはやり返し、チャンスはないわ、と腹を立てたり、悲しがりたりもしました。そんな月日に私を支えてくれたのは、成人していた二人の子供たちの「ママ、がんばれ!」の応援、長い間大事に付き合ってきたドイツ人の友人たちの変わらぬ友情、そして学生や若い研究生を相手の大学での仕事とその合間に少しものを書く仕事、でした。一度は失敗したけれど、人生それでおしまいたいというわけでもなし、と自らを引き立て、明るくなれたのも、自分だけの力によってではないことをしみじみ思い知らされました。まあ、当たり前といえば、これほど当たり前なこともないかも知れませんが、そこが人の哀しきところでもいふものでしょうか。とにかく離婚の体験を通して私は親身の人たちを以前よりいとおしみ、心から大事にするこ

とを学べたように感じています。

別にきまろきまろ探して回ったというわけでもないのですが、離婚してから三年たった頃、夫人を痛で亡くして失意のどん底にあったドイツ人の大学教授と知り合いました。人為して不可

こうした月日に平行して、私たちが住み暮らし、仕事をしていた国、東ドイツが崩壊の道をたどっていききました。そして、一九九〇年の一月、あつけないとしかしいようなない一国の消滅。歴史がいかなる判断を下すかはともかくとして、四十年をそこで暮らして来た千六百万人の市民大半にとって、いわば、昨日の敵は今日の友の大逆転。あるいは、他人であった間は目にはすばらしく映って、限らない羨望を呼び覚ました隣人の庭も、質素ながらもわが家の庭にまで手をのばしてくれば、有難たがってばかりもいられない、そんな日々が私たちに襲いかかってきました。当時のことは「世界地図から消えた国―東ドイツへのリクイエム」(新評論社 一九九一年)にまとめて、出版しましたが、それ以来はや二年余、統一に伴うドイツの政治、経済、社会、文化のあらゆる分野での動揺、混乱のさなかを生きつつ、改めて人が人と生きていくありかたを問いかけてつづけています。一度滅びてしまえば、やり直しは決してない「国」に住みつづけるながら、そして、ふたたび与えられた愛とおもひやりの「やり直し」をつづけるから...。

幸い大学で若い学生に日本語や日本文学などの講義をつづけることもでき、今のところ病氣もせず、今度こそ本当に、優雅に年がとれそう、と心静かに思い致しているところです。



ワシントンの米国会議会図書館に勤めて

吉村 敬子(高校四回)

大学を出てから駒込の東洋文庫(図書館)、シラキューズ大学の図書館(ニューヨーク州)、ハーヴァード大学燕京図書館(東洋学図書館)、と議会議会図書館(首府ワシントン)と図書館勤務を続けております。

図書館内にある議会調査局のスタッフへの資料提供(今年から日本の国際交流基金の資金を元に、ジャパン・ドキュメンテーション・センターを議会図書館内に設置したので、この機能がそこに移される)、その他のアメリカ政府機関、一般のアメリカ人、日本人の学生、教授、会社や報道関係者等、東洋人、アフリカ人、ヨーロッパ人、ロシア人等々、種々の人々に、日本語の資料や英語の日本関係資料を提供しています。アメリカ政府も緊縮財政で図書館でも人手不足で大変です。

去年、この図書館から、左記の目録を出版しました。
「Japanese Government Documents and Censored Publications: A Check-List of a Microfilm Collection (日本の公文書及び検閲資料)(一九五四年以前) : マイクロフィルム チェックリスト」という本です。

この中にリストされている資料は、占領期に日本統治上必要とされた資料を日本政府機関、旧陸軍機関、満鉄東京支社、その他の研究所等から収集してワシントンに送付してあったものの中のごく一部をマイクログラフしたもので現物は大体日本に返還されているものです。この内、文書類は、左翼右翼、

労働争議、軍関係等。検閲資料は、この本には大体単行本とパンフレット類で、旧内務省警保局により検閲を受けた、発禁本や削除処分を受けたものです。

検閲を受けた雑誌論文をマイクログラフしたもの、チェックリストは、今年の春に出版される予定です。今は文書類の残りの分をマイクログラフして、目録を作る作業と、既にマイクログラフされた残りの資料の目録化の仕事を続けています。図書館の仕事が終わってからの自分の時間内で行うので、進行速度が遅く、次の目録の準備にまだあと五、六年は優にかかりそうです。

図書館では、日本語のワープロも購入してもらえず、日本図書館協会よりの御寄付の一台だけで、これを図書館の仕事に大変重宝に使わせていただいております。日本の書誌索引データベースも同協会よりの御寄付のJIBISCだけでです。但し、図書館のコレクションと定期刊行物は、七十五万冊以上戦前戦後の出版物をあつめてあり、日本以外ではもちろん最大のコレクションです。日本からの研究者によると、日本にいるより、サーヴィスが早く使いやすいというところも確かにあるようですが、それだけ利用者数が少ないというところもいえるでしょう。

ワシントン東部は、日本の新聞でも報道されているように、毎日ピストルや鉄砲で殺人があり、麻薬売買や、小学生までが学校へピストルを持ち込む等ということが増加の傾向にあり、郊外の方へも広がってきています。拳銃規制が、西部劇でお馴染みの自己防衛のための権利であり、民兵連隊を作れるよう(植民地時代の名残)拳銃所持の権利を憲法が保障しているという理由に固執し、れっきとした軍隊や警察があるにもかかわらず、アメリカの伝

会報通信

第五号の会報編集もやっと終了に近づき、編集後記を書くところまでになりました。今回の編集委員の中に、高校四回生で、男子の第一期卒業生である向井正昭さんが、入ってくれました。女子校であった竹早に最初に入學する勇氣。戦後まもなくで、根づいていない民主主義、男女同権等の中で、きこえない男女のつき合いかた。このような時、一期生として入學した五人の方の気持ちほどな感じだったのではないかと。今後共、編集の手伝いをお願いしたいものです。

相変わらずのお願いですが、会報費の振込をお願いいたします。創刊以来、三、〇〇〇通、二、六〇〇通、二、三〇〇通と毎年少しずつ減少いたしました。危機感を持った編集委員会では、前号に於て、一頁を使い、年度別納入者数等をお知らせしました。そのせいか第四号では、二、六〇〇通あまりに多少増加いたしました。第五号では、その数がいくつにならずか楽しみです。郵便料金もあまり財政的にも会員全員に送付ということはありません。パブルもはじけ、広告収入も減少しております。会員の皆様の振込を重ねてお願いいたします。

一世紀、百年という数は、大きく、長く感じられます。元氣よく楽しく生きて、世紀交わりの時を迎えたいと皆様も考えていると思います。その時に丁度、竹早高校も、一〇〇周年を迎えます。営々と時を積み重ねてまもなく一〇〇年。会員の皆様全員が、その中の何年間かを過ごし、歴史の中に存在

しています。貴重で楽しく、あるいはにがく過ぎた青春の中、思い出がたぐさんあると思います。一〇〇周年の時に、大きく記念誌を発行したいと考えています。思い出の資料を沢山貸して下さい。提供していただいた資料は必ず返却いたします。学校側とPTA、それに委員会が一緒になって委員会を作り一〇〇周年に向けて資料収集を行っていきます。会員の皆様の理解と提供をお願いいたします。

尚、今後委員会館にしましては、左記の様に住所が変わります。

〒112 東京都文京区小石川四二一
都立竹早高等学校・委員会。

宛にお願いたします。電話については決定次第でお知らせ致します。これで第五号も校正、印刷、送付作業等を経て、会員の皆様の許へ届けられます。一段落です。



会報費払込のお願い

会報は皆様のお払込みと広告費によって発行されております。なお一層のご協力をお願いいたします。同封の振込用紙(振込手数料はいりません)にてお忘れなく。

会報委員会一同

会報会計報告(4号) 平成6年1月19日現在

会報費納入金人数	2,568人
《収入の部》	
正味金額	2,476,010円
広告代金	1,157,130
受取利息	116,485
計	3,749,625
《支出の部》	
会報送料	845,784
会報制作費	1,674,528
会報編集費	159,866
計	2,680,178
差引残高	1,069,447



統であるといつて、遅々として進みません。拳銃製造及び輸入、販売業者等の政治献金が、議会議員を動かしているのも大きな理由です。犠牲者が今のところ主に黒人や少数民族等に限られているからでもあります。

それでも、犠牲者がだんだん一般社会にも浸透してきた事も手伝って、少しずつ拳銃規制を支持する層が大きくなりつつあり、気の遠くなるような大変な努力を払って、大衆の意見を交換させるよう働いている人や、寄付をする支持者も多くなってきているので、遂には、憲法改正とまではいなくても、相当程度の拳銃規制ができるのではないかと思います。

国が大きく、住民も多種多様で、又この問題が、低所得、教育の低下、家族崩壊、人種差別等の問題にも関連する為、方向転換には、日本の何倍もの努力、費用、時間がかかるようです。

昨日(一月二十九日)のワシントン・ポスト紙の一面に、細川内閣は、政治改革修正案で生き延びようだという記事を載せています。

では、この辺で、皆様の御活躍、御健康をお祈りいたします。

※ 広告協力へのお願い!

会報の広告は卒業生の皆様へのメッセージやPRのスペースとしてお気軽にご利用下さい。
 会報によって卒業生どうしのコミュニケーションが出来る事は会報編集者にとって大変嬉しい事で
 楽しみの一つです。個々の情報をぜひ会報の広告でお役立て下さい。

1コマ(6×5cm)1 1万円以上掲載出来ます。

広告のお申込みは 03-3821-0210 株式会社ニットー内 簗会報編集委員長 角掛 隆

日本陰陽暦日対照表(加唐興三郎編著)旧姓・間瀬先生
 がなんと1500年間約50万日分の「こよみ」を本にしました。日本
 経済新聞に8段ぬきの記事として、とりあげられたのが きっか
 けとなり産経新聞や大分合同新聞等の地方新聞各紙に記事として
 掲載されたり、国際交流基金のニュースレターで全世界で紹介さ
 れ、アメリカのハーバード大学・プリンストン大学・公立クリ
 ーブランド図書館等へ納入され、只今大好評発売中です。

国文学古典の読解鑑賞・歴史上の諸事件の確証

天文・気象・農業学の検証に役立つ本

和暦と西暦(ユリウス暦・グレゴリオ暦)の比較対照が
 一目でわかる「日本陰陽暦日対照表」出版発売元
にほんいんようれきじつたいしょうひょう

株式会社ニットー出版企画

〒113 東京都文京区千駄木3-22-11-623

TEL 03(3821)0210 FAX 03(3823)0064

高校10回生・昭和33年卒 角掛 隆・角掛昌枝(旧姓・三郎)



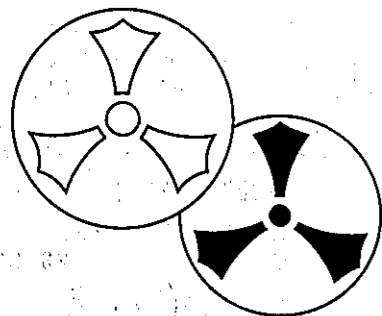
冬柏庵

日曜小画廊—第1～第4日曜の午後のみ
 川合玉堂門下境野冬柏・興津漁春先生の作品を展示します。
 日本画教室—毎月第3土曜に興津漁春先生による日本画の
 勉強会が開かれます。ご希望の方はご入会下さい。

〒153 東京都目黒区東山3-18-3 (玉川線池尻大橋下車5分)

TEL 03-3710-0070 連絡先 03-3460-1100

藤野和枝(旧姓進藤) 高校4回生・昭和27年卒



財団法人 三徳庵

大日本茶道学会本部教場

〒160 東京都新宿区左門町120 TEL 03(5379)0753 FAX 03(3351)2762

紫竹会

昭和27年卒業 高校4回同期会

国立音楽大学

教授(独語担当)

内海 晶

〒103 東京都中央区東日本橋2-2-9

TEL 03(3851)8544

昭和27年卒(高校4回生)

内科・小児科

山田医院

山田ムツ子

(高校4回・旧姓山下)

〒251 藤沢市辻堂西海岸2-10-6

TEL 0466(36)5379

渡辺内科医院

渡辺 郁子

(高校4回・旧姓中島)

〒247 鎌倉市寺分3-16-7

TEL 0467(45)9536

大阪家庭裁判所・調停委員

有限会社 青木不動産

青木知子(旧姓吉田)

〒163 西宮市里中町2-9-23-305

TEL 0798(46)3217

FAX 0798(47)7795

(昭和27年卒・高校4回)

染色デザイン制作

(きもの・帯・染額等)

安岡 桂子

(高校4回・旧姓後藤)

〒112 東京都文京区白山4-27-18

TEL 03(3813)1312

喜多流謡教授

伊藤 節子

(高校4回・旧姓安岡)

〒112 東京都文京区白山4-27-19

TEL 03(3811)0830

学校法人

上尾みどりが丘幼稚園

園長 中島 明子

(高校4回・旧姓城座)

〒362 埼玉県上尾市緑丘4-13-13

TEL 048(772)3727

夜間 048(774)3952

国立音楽大学

〒119 立川市柏町5-5-1

TEL 0425(36)0321 代表

<p>紙の総合商社</p> <p>株式会社 深山</p> <p>東京都台東区元浅草1丁目1番3号 TEL (3842) 1211 (大代表)</p>	<p>昭和ビル歯科医院 (健保取扱) 京橋明治屋前 院長 三輪 順一 昭和43年卒 (高校20回)</p> <p>診療時間 (月)~(金) 10:00~1:00 2:00~6:00 〒104 東京都中央区京橋2-8-18昭和ビルB2 TEL 03-3561-0917</p>	<p>手袋人形作家 子供の文化研究所 講師 長 縄 泰子</p> <p>旧姓長谷川 昭和25年卒 (高校2回) 〒171 豊島区西池袋4-3-5 TEL 03-3982-6847</p>
<p>バイオ理化学実験器械 販売</p> <p>テクノス株式会社 (社名が変わりました) 代表取締役 新井 堅司 昭和30年卒 (高校7回) 〒113 東京都文京区本郷2-17-8 TEL 03-3814-2066 FAX 03-3814-2060</p>	<p>医療法人 社団法人 大成会</p> <p>長 汐 病院 三宅 美智子 昭和21年卒 (高女47回) 〒170 東京都豊島区池袋1-5-8 ☎ 03(3984)6161代表</p>	<p>サンヨー工業 株式会社</p> <p>代表取締役 吉岡 忠俊 昭和36年卒 (高校13回) 〒173 東京都板橋区双葉町45-6 ☎ 03(3964)6090</p>
<p>対 崎 俊 一 昭和40年卒 (高校17回) 〒170 東京都豊島区南大塚2-7-7 TEL 03-3357-3775</p>	<p>インテリア デザイン 室 R. K. SCHAEFFER DESIGN 建築インテリアデザイナー JID 金子 浩子 (昭和25年) 〒107 東京都港区赤坂9-6-28 アルベルゴ乃木坂1208 PHONE 03-3479-0583 F A X 03-3479-0859</p>	<p>料理 研 究 家 城 戸 崎 愛 (昭和18年卒・高女43回生) 〒160 東京都新宿区大京町14 ☎ 03(3351)5562</p>
<p>静岡キタハイの川根茶</p> <p>巖山広園本店 専務取締役 山 廣 俊 雄 昭和30年卒 (高校7回) 〒112 東京都文京区小石川4-21-1 TEL 03-3811-2002・0565</p>	<p>株式会社 日 東 〒116 東京都荒川区荒川4-33-2 ☎ 03(3802)4521 吉 川 凱 江 昭和19年 (高女44回) 〒116 東京都荒川区荒川4-33-2 ☎ 03(3891)2020</p>	<p>SALAT</p> <p>本社 兵庫県姫路市北条356-1 〒670 Tel.0792-84-1380 Fax.0792-24-7746 東京支社 東京都台東区台東2-27-7 〒110 日土地御徒町ビル8F フリーダイヤル0120-036381 Fax.03-3832-6389</p>

<p>酸洗鋼板・熱延鋼板 シャーリング・スリット・レベラーカット 加工販売 貴金属シール・サイン</p> <p>泰誠産業株式会社 代表取締役 内 山 光 政 昭和33年卒 (高校10回) 台東区上野3-18-1西武ビル3階 ☎ 03(3836)1068</p>	<p>奄美クルマエビ(株) 専務取締役 上 野 国 衛 昭和33年卒 (高校10回) 〒894-05 鹿児島県大島郡笠利町手花部353-1 TEL 0997(63)2406 FAX 0997(63)1351</p>	<p>特殊刃物・スクレパー 薄刃、厚刃、丸刃、超硬 設計 製作</p> <p>ダイワ刃物工業有限公司 代表取締役 関 文 隆 昭和33年卒 (高校10回) 〒175 東京都板橋区徳丸1-9-8 TEL 03(3550)3355 FAX 03(3550)3519</p>
<p>電子部品 販売・製造</p> <p>東光株式会社全製品特約店 光栄電子株式会社 代表取締役 岩 田 健 児 昭和33年卒 (高校10回) 東京都大田区東雪谷1-3-3 ツドビル ☎ 03(3728)6301</p>	<p>パロディスト マッド・アマノ (天野正之) 〒114 東京都北区上中里1-14-2 ☎ 03-3910-3051 昭和33年卒 (高校10回)</p>	<p>ホテルの事ならどのような ご相談にも伺います。</p> <p>東京ホテル企画 株式会社 代表取締役 片 野 基 之 昭和33年卒 (高校10回) 〒330 埼玉県大宮市宮原町2-88-1 TEL 048(651)5521 FAX 048(651)5524</p>
<p>株式会社 飯田製作所 常務取締役 豊 泉 和 男 昭和33年卒 (高校10回) 本社 東京都板橋区宮本町34-6 ☎ 03(3965)9181 滑川工場 埼玉県北企郡滑川村大字都25-30 ☎ 0493(56)4141</p>	<p>ホテルロイヤルオーク五反田 ニッセイ通商 株式会社 代表取締役 楢 林 丘 至 昭和33年卒 (高校10回) 〒141 東京都品川区西五反田1-9-3 ☎ 03(3492)5111</p>	<p>芸能催事イベント等ご相談下さい。 所属 小野ヤスシ・おぼん・こぼん ホームラン・おりも政夫 柴田國明・南里 牧</p> <p>株式会社 トービック 代表取締役 木 下 三 郎 昭和33年卒 (高校10回) 〒160 新宿区新宿1-7-2 昭和ビル9F ☎ 03(3226)1431</p>
<p>不動産賃貸</p> <p>株式会社 三 宝 代表取締役 岩 佐 守 啓 昭和33年卒 (高校10回) 〒274 船橋市前原西2-14-2 TEL 0474(76)1131 FAX 0474(73)0445</p>	<p>書籍 販 売 イトーヨーカドー津田沼店 イトーヨーカドー志津店</p> <p>株式会社 峰 文 堂 代表取締役 岩 佐 守 啓 昭和33年卒 (高校10回) 〒274 船橋市前原西2-14-2 TEL 0474(72)2209 FAX 0474(76)7995</p>	<p>不二家ファミリーチェーン千葉園店 不二家ファミリーチェーン実稲店 不二家ファミリーチェーン宮野木店</p> <p>株式会社 サンアイ 代表取締役 岩 佐 守 啓 昭和33年卒 (高校10回) 〒274 船橋市前原東5-23-20 TEL 0474(72)6227</p>



創造するビジネス考えるメディア

株式会社ヴィアックス

東京都中野区弥生町2-8-15〒164 TEL:03(3299)6011 FAX:03(3299)6005

魚の好きな人の店 座敷、テーブル

本郷 佐と う

昼：11時半～2時 夜：5時～10時半 (休日 日曜・祝日)

東京都文京区本郷5丁目23番12 鳩山ビル地階1階

電話 03(3816)3224

池袋西口

ふれあいの街角にゆとりある雰囲気
池袋西口名物



洋菓子店 サンフラミンゴ

●当店自慢の味を是非ご賞味下さい

池袋西口・東武デパート北隣 F1・F2

☎03-3982-9061

囲碁 西池袋囲碁サロン

池袋西口・東武デパート北隣 7F

姉妹店 喫茶フラミンゴ

池袋西口駅前三井信託B2

ご宴会・ご商談・昼定食

営業時間・AM11:30～PM11:00

酒蔵 鞍

地下1・2階

☎03-3986-3926

スキー&テニス 姫木平エコーパレー

信州北白樺高原 ホテルフラミンゴ

長野県小県郡長門町大字大門字追分3518-5
(白樺湖より車で5分、送迎車あり)

☎0268-69-2011

●お申込み 東京連絡事務所F3
豊島区西池袋1-28-1

☎03-3983-4555

西池袋ビルディング株式会社 代表取締役 恩田裕城 昭和33年卒 (高校10回)

専門体育教師による水泳・体育指導

個性を伸ばし、のびのびと明るい、元気な子を育てる

日進まこと幼稚園

☎331 大宮市日進町2-1048(丸広百貨店南隣り) ☎048-663-0938

第二まこと幼稚園

☎331 大宮市日進町3-193(日進北小東隣り) ☎048-664-1785

野尻国彦(昭和41年卒・高校18回)

毎週木曜夜7時～9時、日進北小体育館でママさんバレーボールの練習をしています。お近くの方はどうぞご参加下さい。

ボルボ正規ディーラー

ヨシダ・オート株式会社

代表取締役 吉田光之 (高校17回)

☎113 東京都文京区向丘1-7-14

☎03-3818-8551 FAX 03(3818)4734

竹早高校同窓会の発展をお祈りします

篁会同窓会

会長 愛知 富

昭和9年卒 (高女34回)

竹早高校同窓会の発展をお祈りします

関西篁会

会長 内藤 花

昭和3年卒 (高女28回)

自然回帰塾
Schedule
1994

週末ワークショップは毎月第2週です。

4月
4月8~10日
オープニングパーティ
・作陶

5月
5月13~15日
ウォッチ&ウオーク
・作陶

6月
6月3~5日
草木染め
10~12日
荘先生の食養生
セミナー・
作陶

7月
7月8~10日
ウォッチ&
ウオーク・作陶
7月21~25日
手の学校1
学生対象・
作陶・染色

8月
8月18~22日
手の学校2
22~26日
手の学校3

9月
9月9~11日
荘先生の食養生セミナー
・作陶
穴窯窯焼き体験塾
窯詰め 9月15日
窯焼き 9月23
~26日

10月
10月8~10日
ウォッチ&ウォッチ
・作陶
穴窯窯焼き体験塾
窯出し 10月8日

11月
11月4~6日
紡ぎと織・作陶

詳しくは事務局へお問合せ下さい。☎ 03-3943-2415

財団法人 竹早会

都立竹早高等学校(5)改築工事

建築工事 | 飛島・岩井建設共同企業体

飛島建設株式会社

代表取締役社長 石原昭一郎
専務取締役東京支店長 傳田勲郎

本社 東京都千代田区三番町2
☎ 03(3263)3151代表
東京支店 東京都千代田区三番町6-1
☎ 03(3263)2255代表

岩井建設株式会社

代表取締役社長 岩井 隆

本社 東京都文京区小石川1丁目13番11号
☎ 03(3815)8911代表

機械設備工事 | 協栄・高橋建設企業体

協栄施設株式会社

代表取締役 河内 威

東京都文京区向丘2丁目14番2号
☎ 03(3821)6181

株式会社 高橋管工社

代表取締役 高橋 金治郎

東京都文京区本駒込2丁目27番16号
☎ 03(3944)6451

電気設備工事

文京電気工業株式会社

代表取締役 岩淵 稔

東京都文京区春日1丁目11番17号
☎ 03(3813)4661